

# 十和田市観光戦略2025-29

---

令和7年3月

## 1. 十和田市観光戦略の位置付け

## 2. 観光市場の動向

- 1) 観光振興の目的
- 2) 世界の観光動向
- 3) 日本の観光動向
- 4) 青森県の観光動向
- 5) 十和田市の観光動向

## 3. 十和田市観光戦略のビジョンとミッション

- 1) 十和田市観光戦略2022-24の主な取組
- 2) 十和田市の観光課題
- 3) ビジョンとミッション
- 4) 顧客ターゲット
- 5) 重点課題

## 4. アクションプラン

### 1) 課題解決のためのアクションプラン

- ① 観光コンテンツの創出・定着
- ② 受入環境の整備・充実
- ③ 持続可能な観光産業の確立と生産性の向上
- ④ 国内外からの誘客強化

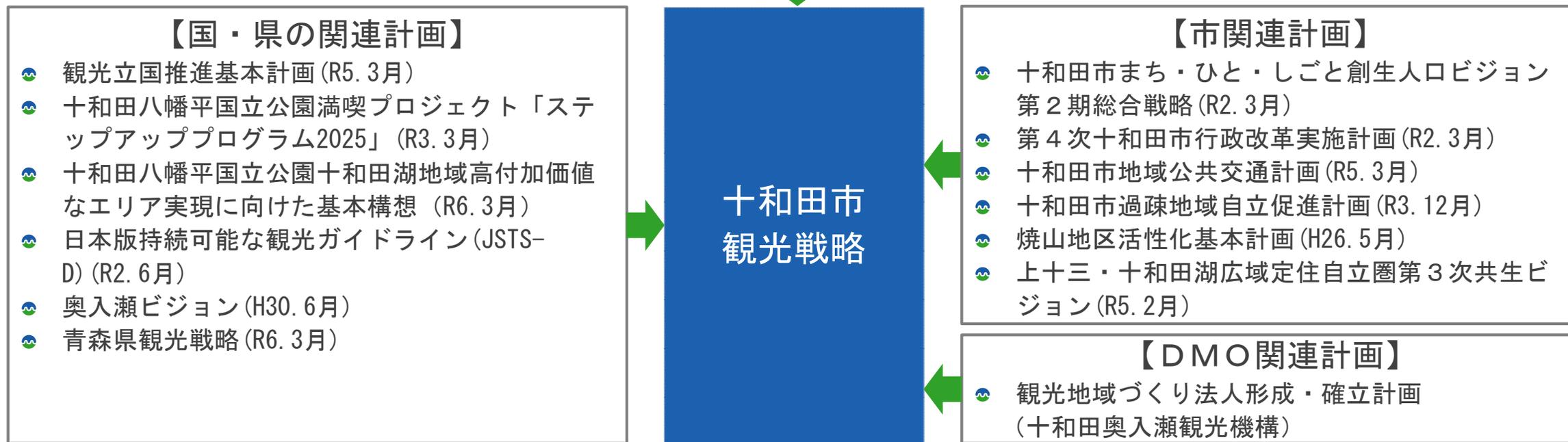
# 1. 十和田市観光戦略の位置付け

---

# 1. 十和田市観光戦略の位置付け

- 十和田市観光戦略は、当市における観光関連の目標や取組の基本的方向、施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項を定めるものであり、観光施策に係る「実施計画」として位置付け、各分野個別計画とも連携を図るものとする。
- 計画期間は、2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5年間とし、PDCAサイクルにより必要な見直しを図るものとする。

## 第2次十和田市総合計画 (H29. 3月)



## 2. 観光市場の動向

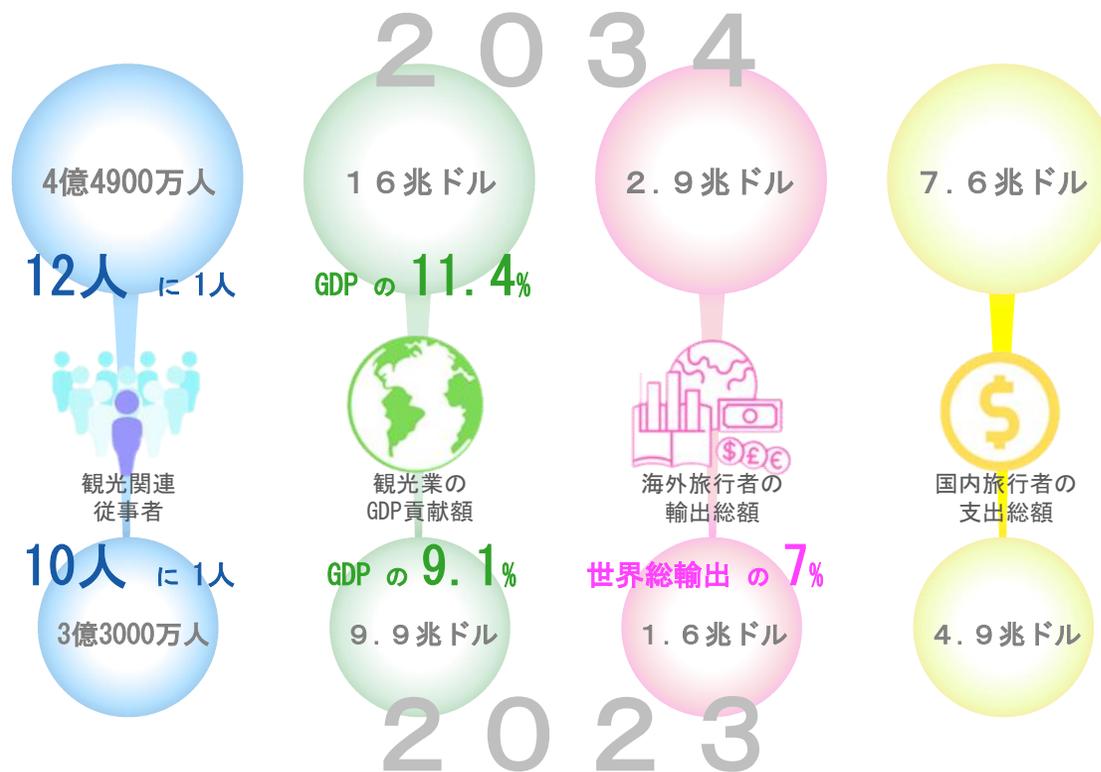
---

# 1) 観光振興の目的

## 観光振興の目的 … 持続的な経済活動と雇用確保

- 世界の観光関連従事者は約3億3000万人  
10人に1人の割合
- 観光産業の世界経済貢献額は9.9兆米ドル  
世界GDPの9.1%
- 海外旅行者の輸出（支出）総額は1.63兆米ドル  
世界総輸出額の7%
- 国内旅行者の支出総額は4.96兆米ドル

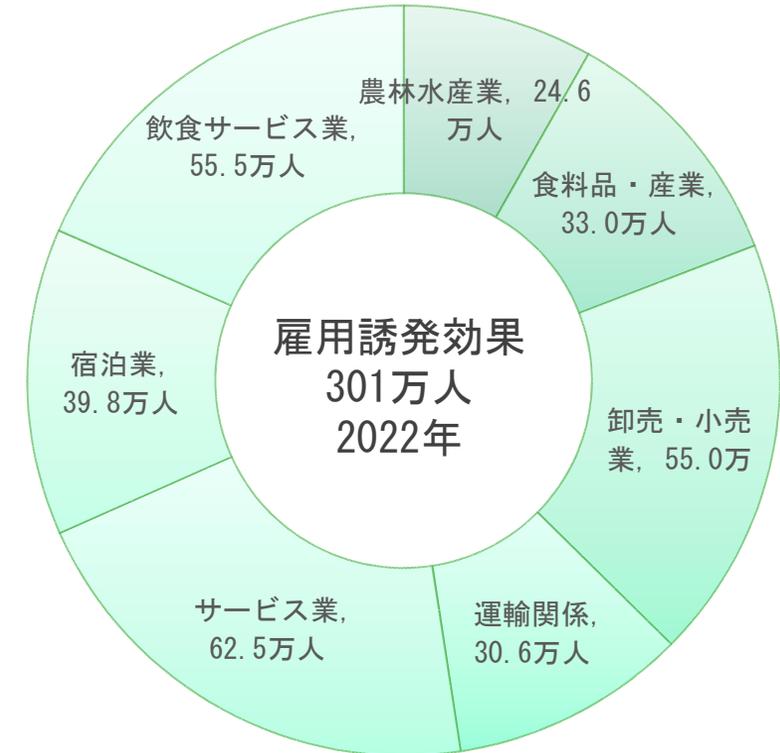
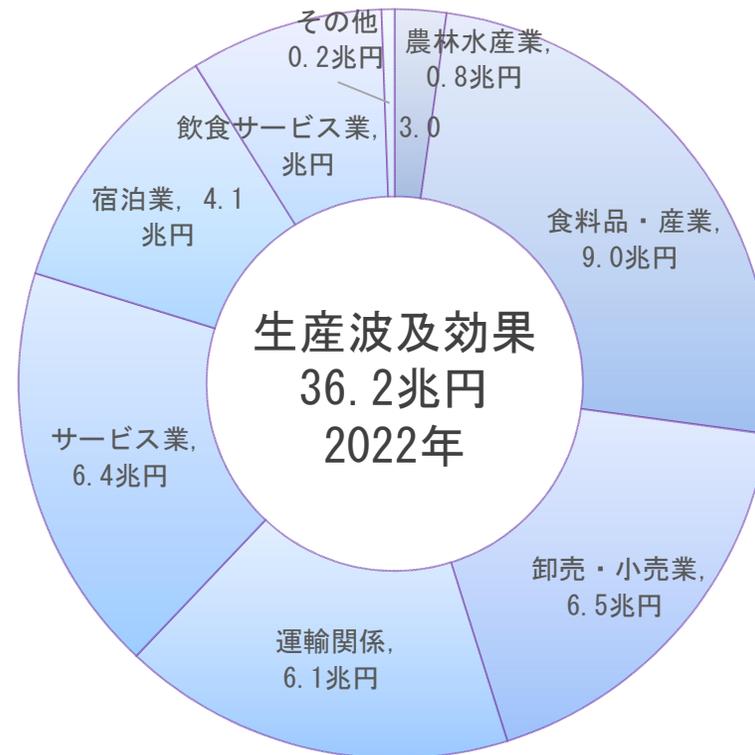
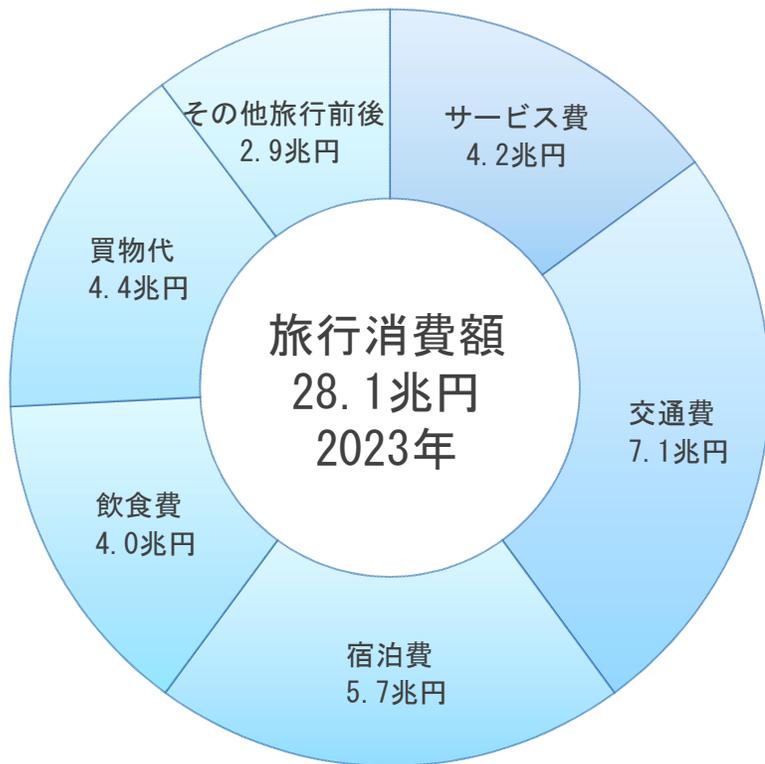
世界経済に与えるインパクトは非常に大きく  
今後も拡大が予測される



出典：World Travel & Tourism Council "Travel & Tourism Economic Impact Research (EIR) 2024"  
World Trade Organization "Global Trade Outlook and Statistics 2024"  
UN Trade & Development "Global Trade Update 2024"

# 1) 観光振興の目的／旅行消費額の波及効果

- 2023年(令和5年)の旅行・観光消費額が28.1兆円、2022年の18.7兆円から大幅に増加
- 2022年時点の観光産業が他産業にもたらす生産波及効果36.2兆円、雇用誘発効果301万人と算出されており、消費額の増加から鑑みても、2023年の経済効果は極めて大きいことがわかる。
- 観光産業は裾野が極めて広く、基幹産業へと成長するポテンシャルを有する総合産業



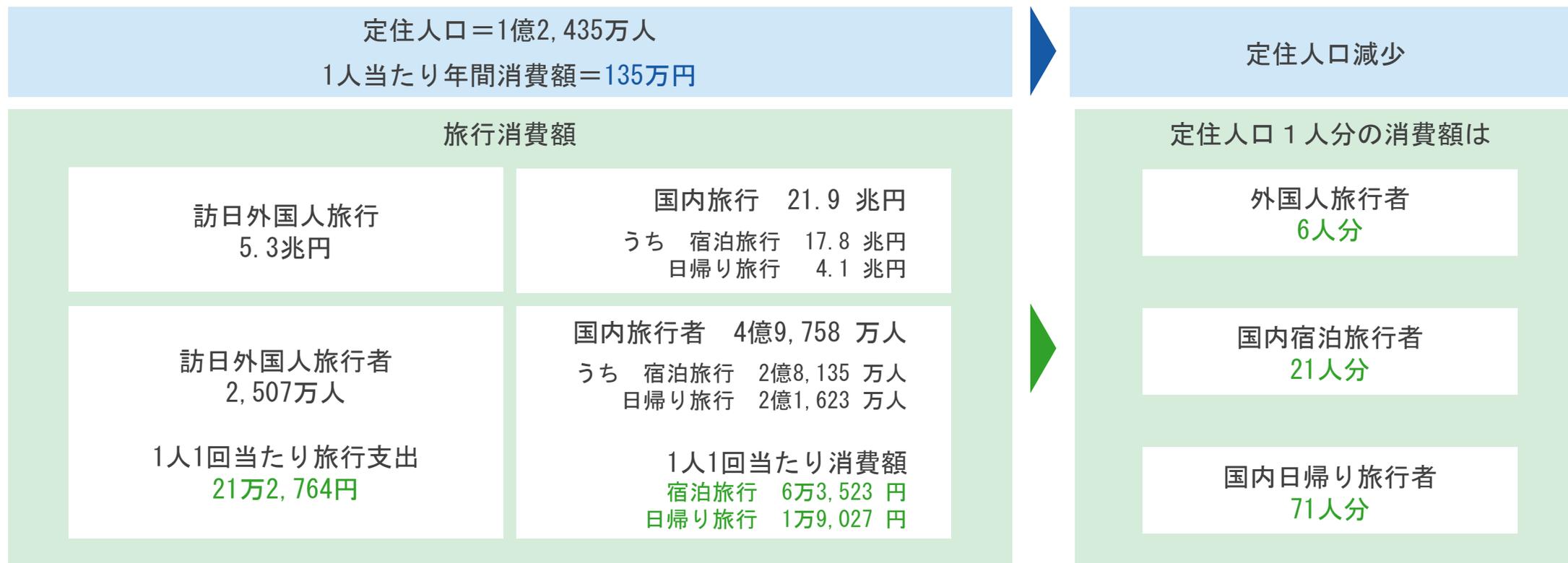
出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査2023年 年間値確報・集計表確報」(2024)より作成

# 1) 観光振興の目的／観光交流人口増大の経済効果

- 日本の人口は2011年以降減少しており、2048年には1億人を割ると推計されているなか、インバウンドを含めた観光交流人口の拡大は、日本経済に大きな効果をもたらす。

## 観光交流人口増大の経済効果（2023年）

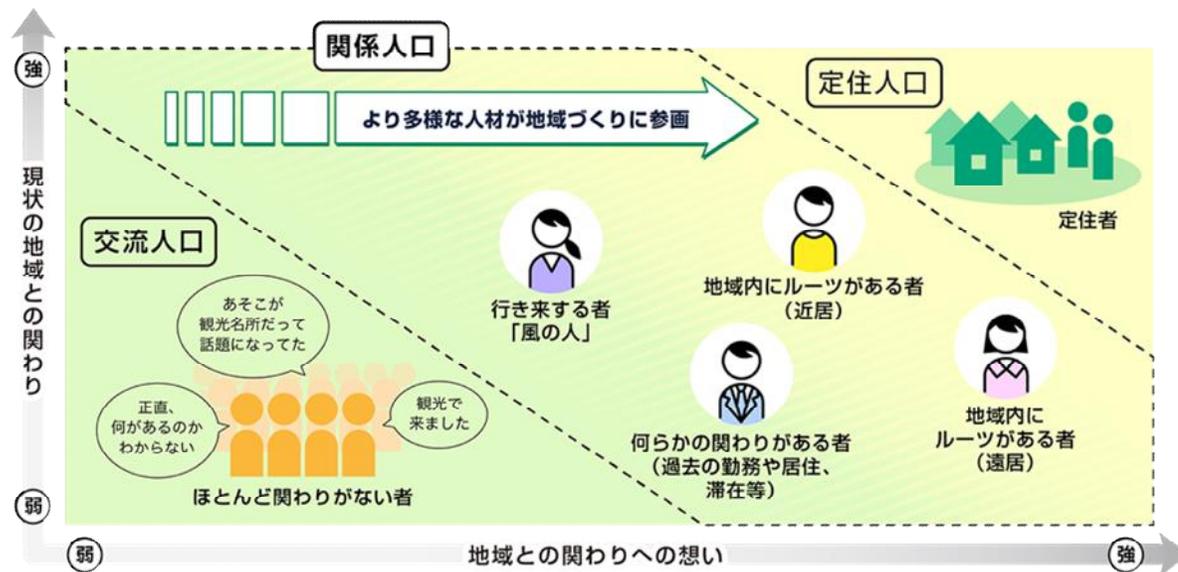
定住人口1人当たりの年間消費額(135万円)は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者6人分、国内旅行者(宿泊)21人分、国内旅行者(日帰り)71人分にあたる。



# 1) 観光振興の目的／関係人口と地域づくり

- 関係人口とは、特定の地域や地域の人々に継続的に多様な形で関わる人々
- 関係人口と呼ばれる地域外の人材が、地域づくりの担い手になることが期待される。
- 交流人口（観光客を含む） ⇒ リピーター ⇒ 関係人口 ⇒ 定住人口
- 観光を通じて地域の魅力に触れることで、関係人口の創出が期待できる。
- シビックプライドの醸成も関係人口とのコミュニティ化に必要

## 関係人口のイメージ



## 十和田市移住支援情報サイト

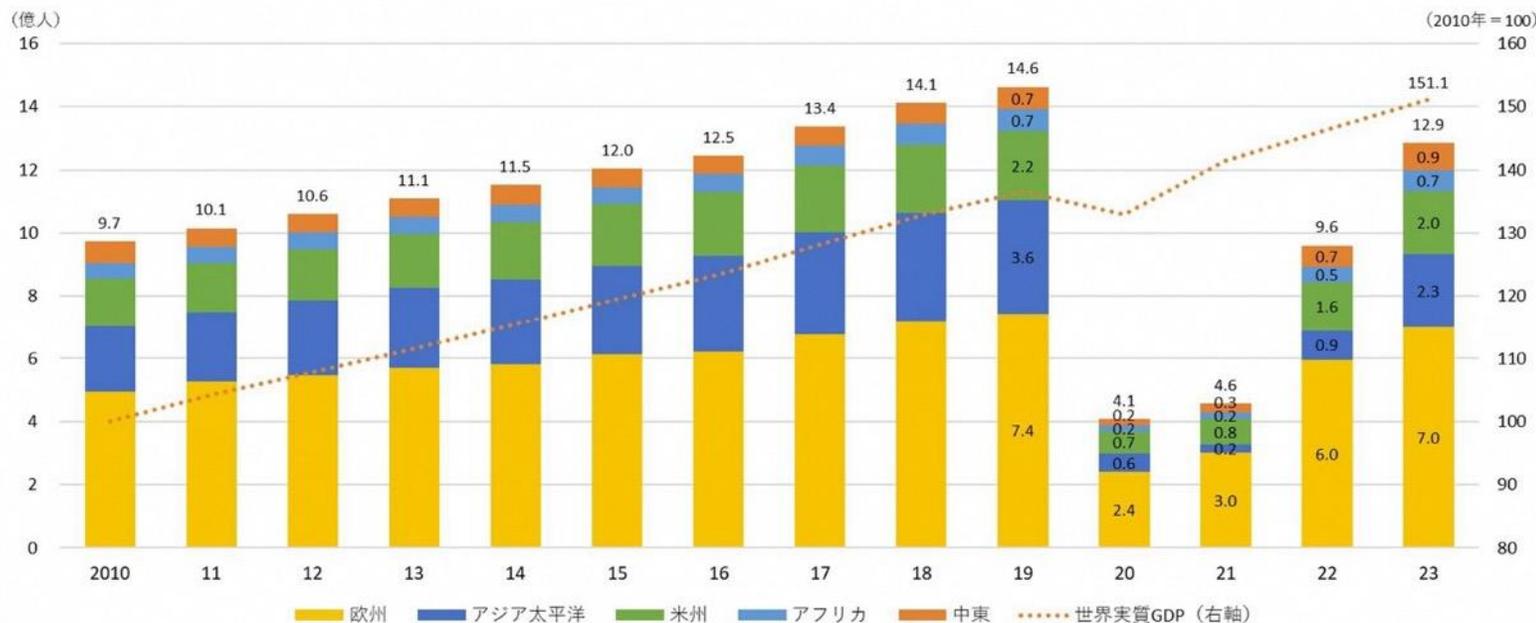


出典：総務省ホームページ「地域への新しい入り口『関係人口』ポータルサイト」

## 2) 世界の観光動向／コロナ禍後の状況

- 国際観光客数と世界の実質GDPの間には強い相関がみられていたが、コロナ禍においては、国際観光客数が実質GDP に比べて大きく減少した。
- 2022年以降は実質GDPの伸びに対し国際観光客数が大きく回復しており、今後も増加が期待できる。
- コロナ禍を経て、世界的に「持続可能な観光」への関心が高まっている。
- 自然・アクティビティに対する需要も高まっている。

### 国際観光客数と世界の実質GDP の推移



資料：世界観光機関（UN Tourism）、国際通貨基金（IMF）資料に基づき観光庁作成。  
 注1：国際観光客数はUN Tourism「Tourism Dashboard」（2024年1月時点）のInternational Tourist Arrivalsの数値。  
 注2：世界の実質GDPは、2010年を100として指数化。

### 旅行需要の変化

サステナブルな旅行に関心がある旅行者

世界の旅行者の 75%

アドベンチャーツーリズム市場規模

2024年  
約100兆円

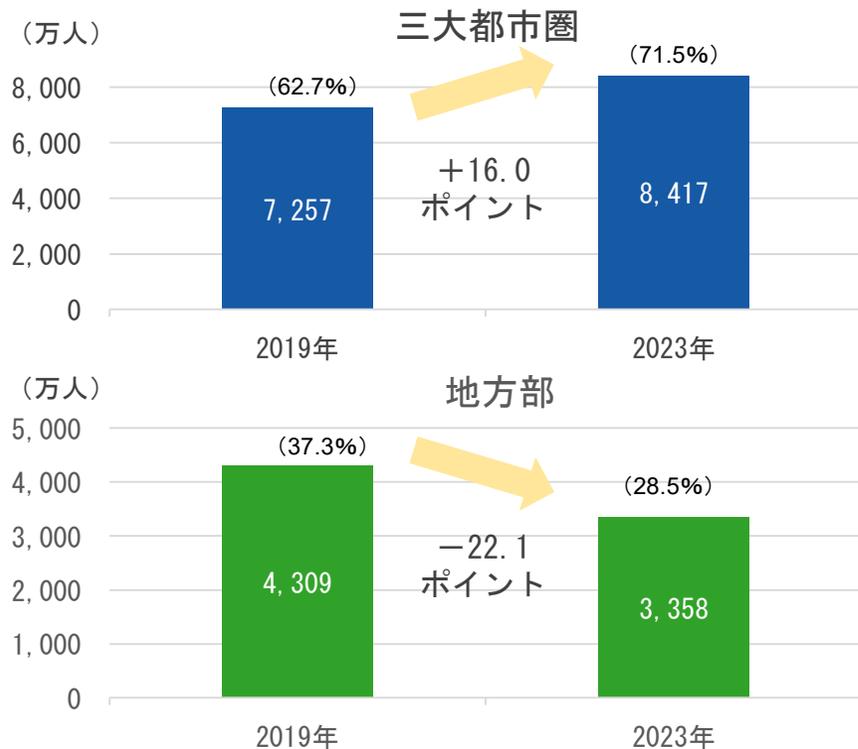
2030年  
約260兆円

出典：Booking.com「Sustainable Travel Report 2024」  
 Fortune Business Insightsの調査

### 3) 日本の観光動向／地方共通の課題

- コロナ禍後の外国人宿泊者数は、3大都市圏がコロナ禍前より増えているのに対して地方部は減少
- 客室稼働率は、都市部は60%以上となっているが、地方部は60%未満となっている。
- 要因としては、市場ニーズに合わせた魅力ある観光地の整備や、地方部へのアクセス性に課題があったことが考えられる。

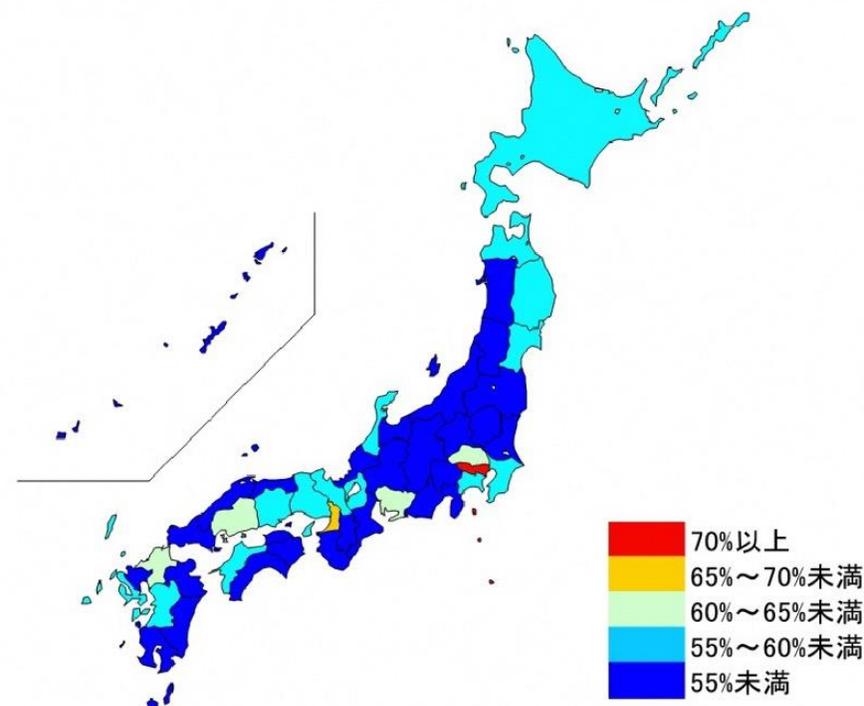
#### 三大都市圏及び地方部における外国人延べ宿泊者比較



出典：観光庁「宿泊旅行統計(2023)」より作成

※ ( ) 内は構成比を表している。

#### —都道府県別客室稼働率(2023年1月～12月(確定値))—



### 3) 日本の観光動向／観光立国推進基本計画（第4次）の概要

- 観光はコロナ禍を経ても成長戦略の柱、地域活性化の切り札。国際相互理解・国際平和にも重要な役割。
- コロナによる変化やこれまでの課題を踏まえ、2025年（万博開催）に向け、我が国の観光を持続可能な形で復活させる。
- 「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、全国津々浦々に観光の恩恵を行き渡らせる。

#### 取り組む3つの戦略

##### 持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- 観光DX、観光人材の育成・確保
- 自然、文化の保全と観光の両立等、持続可能な観光地域づくり

##### インバウンド回復戦略

- コンテンツ整備、受入環境整備
- 高付加価値なインバウンドの誘致
- アウトバウンド・国際相互交流の促進

##### 国内交流拡大戦略

- 国内需要喚起
- ワークーション、第2のふるさとづくり
- 国内旅行需要の平準化

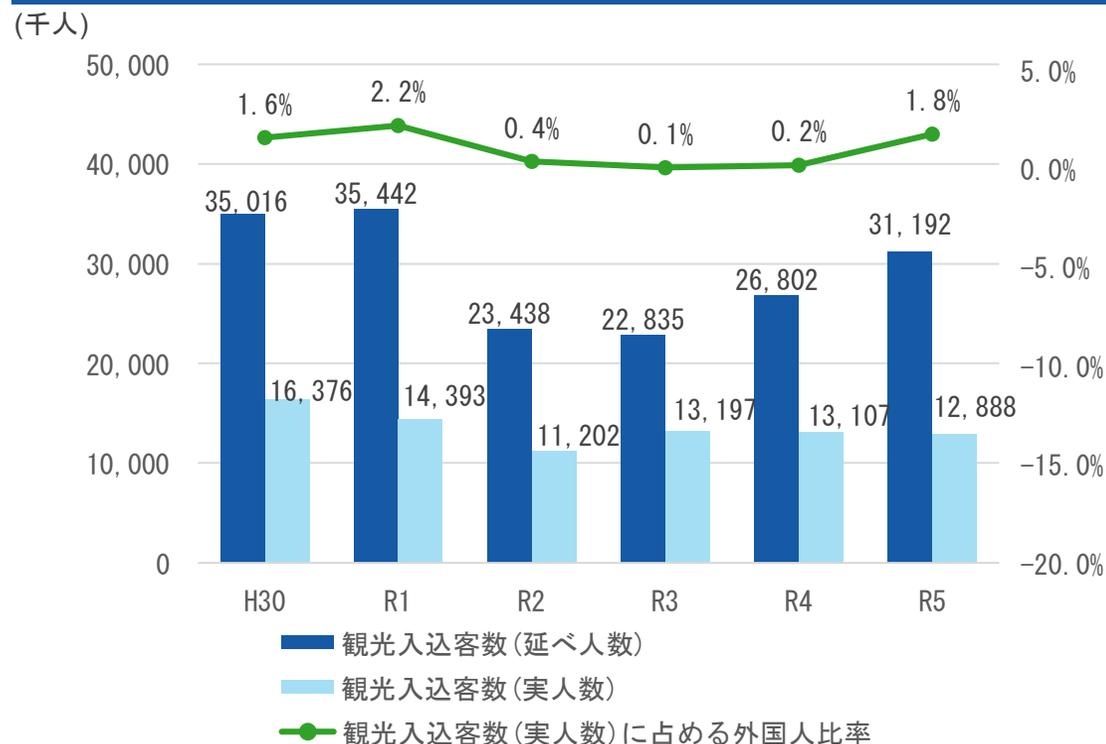
#### 目標

	明日の日本を支える観光ビジョン		観光立国推進基本計画	
	2030年目標	2025年目標	早期達成目標	2023年実績
持続可能な観光地域づくり に取り組む地域数		100地域		31地域 (2023/11/29時点)
訪日外国人旅行者数	6000万人	2019年水準超え (3188万人)		2506.6万人
訪日外国人旅行消費額	15兆円		5兆円	5.3兆円
訪日外国人旅行消費単価	(25万円)	20万円		21.3万円
訪日外国人旅行者 1人当たり地方部宿泊数		2泊		1.27泊
訪日外国人旅行者の 地方部延べ宿泊者数	1億3000万人泊			3190.9万人泊
日本人の海外旅行者数		2019年水準超え (2008万人)		962.4万人
アジア主要国における国際会議 の開催件数に占める割合		アジア最大の開催国 (アジア主要国シェア3割以上)		アジア1位 アジア主要国シェア32.7%
日本人の地方部延べ宿泊者数		3.2億人泊		2.9億人泊
日本人国内旅行消費額	22兆円	22兆円	20兆円	21.9兆円

## 4) 青森県の観光動向

- 青森県における令和5年の観光入込客数(延人数)は、31,192千人(前年比116.4%)と増加した。観光入込客数(実人数)は、12,888千人(同98.3%)と若干低下するも、外国人比率は増加している。
- 観光入込客数(実人数)のうち、宿泊者数は3,701千人(対前年比109.9%)となった。宿泊者比率は約29%で、コロナ禍前の令和元年と同水準に回復してきている。

### 青森県の観光入込客数(延べ人数)



### 青森県の宿泊客数の推移



## 4) 青森県の観光動向／観光戦略

### 青森県観光戦略の将来のビジョン

本県が世界とつながり、世界から選ばれ、観光産業が基幹産業として地域経済を力強くけん引している状態  
「訪れる人」「働く人」「地域の人」が幸せを感じる地域

### 将来ビジョン達成のために解決しなければいけない課題・やらなければいけないこと

#### 観光コンテンツ開発

- ・観光コンテンツ定着
- ・付加価値の創出
- ・情報伝達
- ・青森ファンの拡大

#### 受入環境整備

- ・施設の老朽化
- ・多様な文化や価値観を持つ観光客の受入体制
- ・二次交通

#### 観光地域づくり

- ・人材の確保、育成
- ・デジタル化、観光DX
- ・DMO主体の地域づくり

#### 国内外からの誘客

- ・需要の繁閑差
- ・近隣道県からの誘客促進
- ・直行便の活用
- ・エリア毎の対策

青森県  
観光戦略

2024 ~ 2028

2024年3月  
青森県観光国際戦略推進本部

## 4) 青森県の観光動向／観光戦略

### 青森県観光戦略の基本的な方向性

持続可能な観光の確立

観光消費額の拡大

連泊の推進

### 青森県観光戦略プロジェクト

- [1] 観光の付加価値創出・向上
- [2] 多様な来訪者が快適に滞在できる環境づくり
- [3] 観光DXの推進と持続可能な観光関連産業の確立
- [4] 青森ファンを増やす情報発信
- [5] 国内外からの誘客の強化

**青森県  
観光戦略**

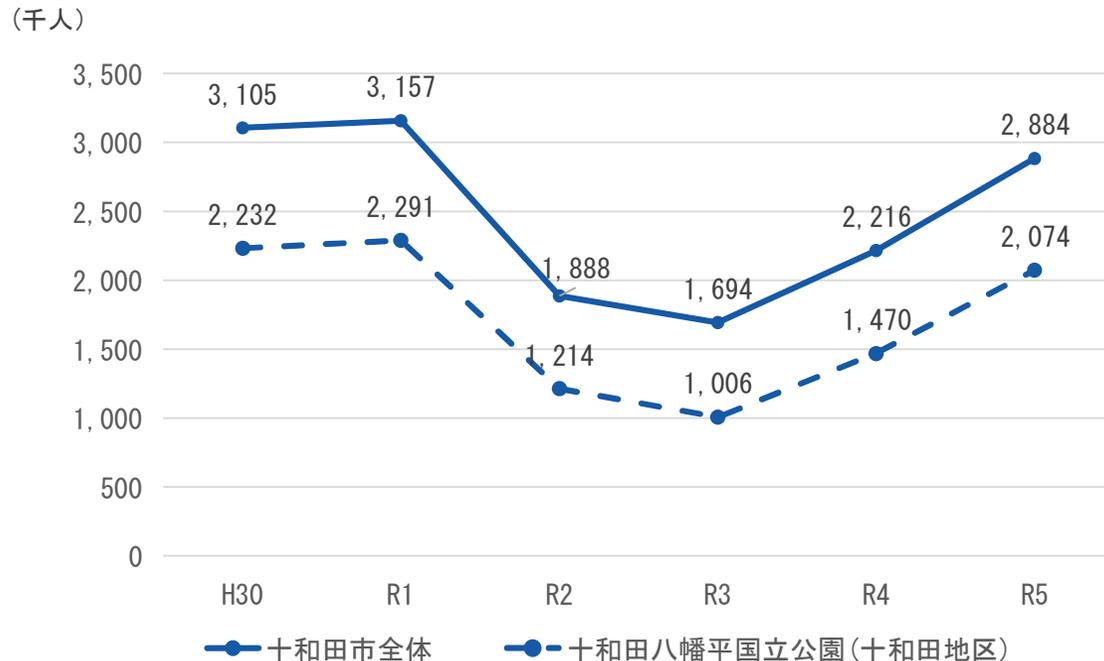
2024 ~ 2028

2024年3月  
青森県観光国際戦略推進本部

## 5) 十和田市の観光動向／観光入込客数・宿泊者数の推移

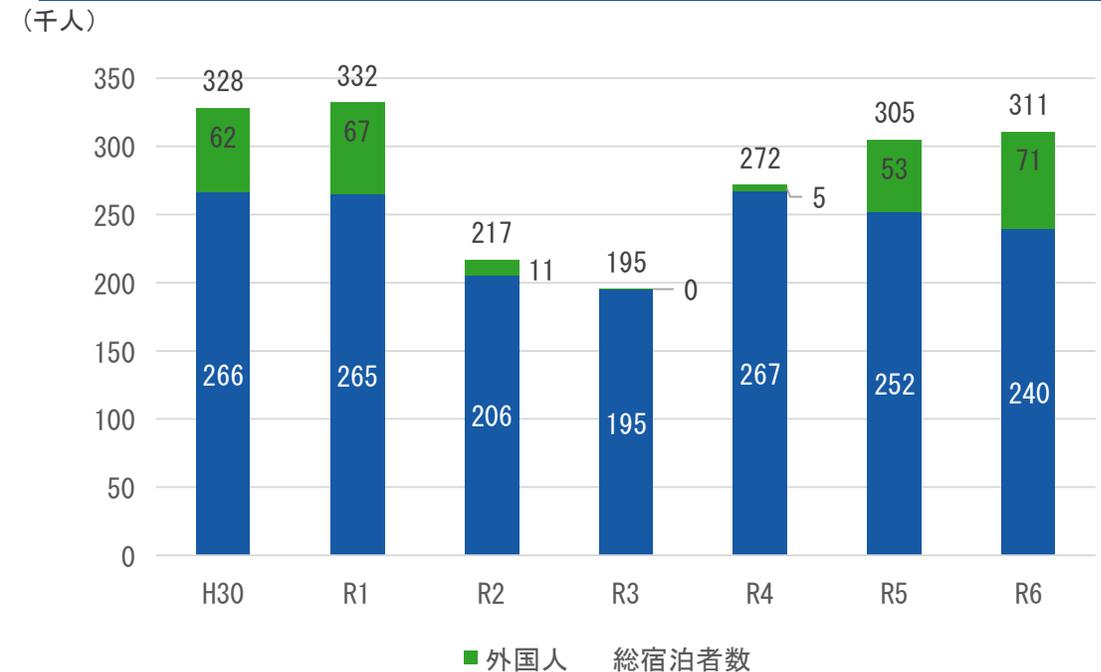
- 十和田市の観光入込客数（延べ人数）は、コロナ禍で大きく減少し、コロナ禍後の令和5年は、コロナ禍前の90%程度まで回復した。
- 十和田市の宿泊者数も同様にコロナ禍で大きく減少したが、令和6年はコロナ禍前の90%以上にまで回復し、外国人宿泊者数はコロナ禍前を上回った。

### 十和田市の観光入込客数 推移



出典：青森県「令和5年青森県観光入込客統計(2023.1-12)」より作成

### 十和田市の宿泊客数 推移

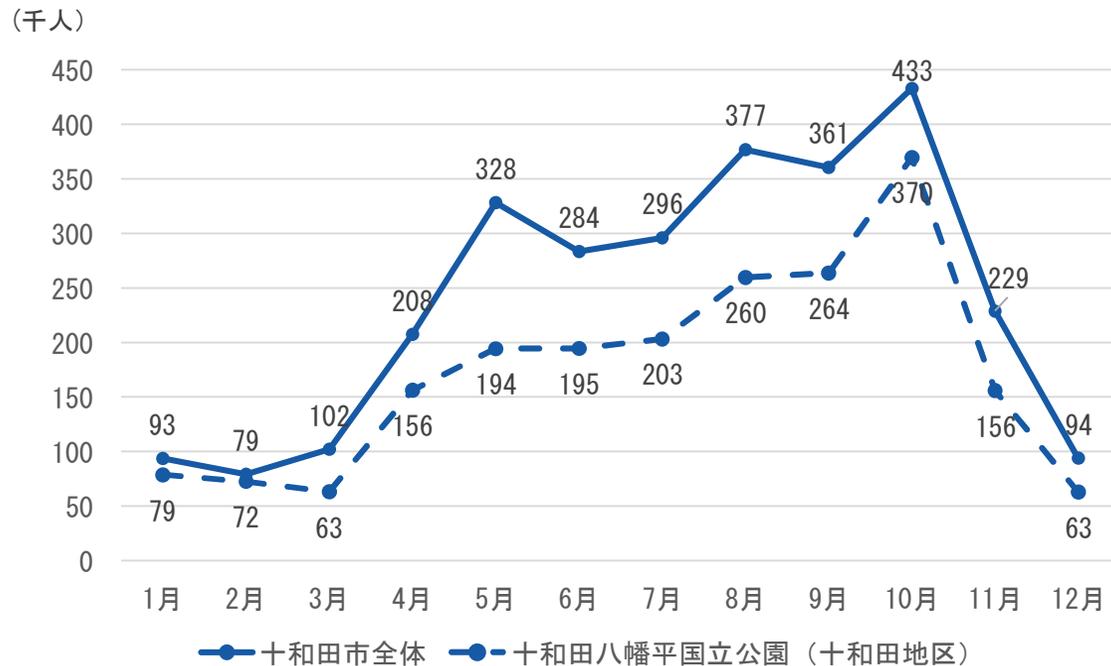


出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」  
 ※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数実数

## 5) 十和田市の観光動向／観光入込客数・宿泊者数の推移（月別）

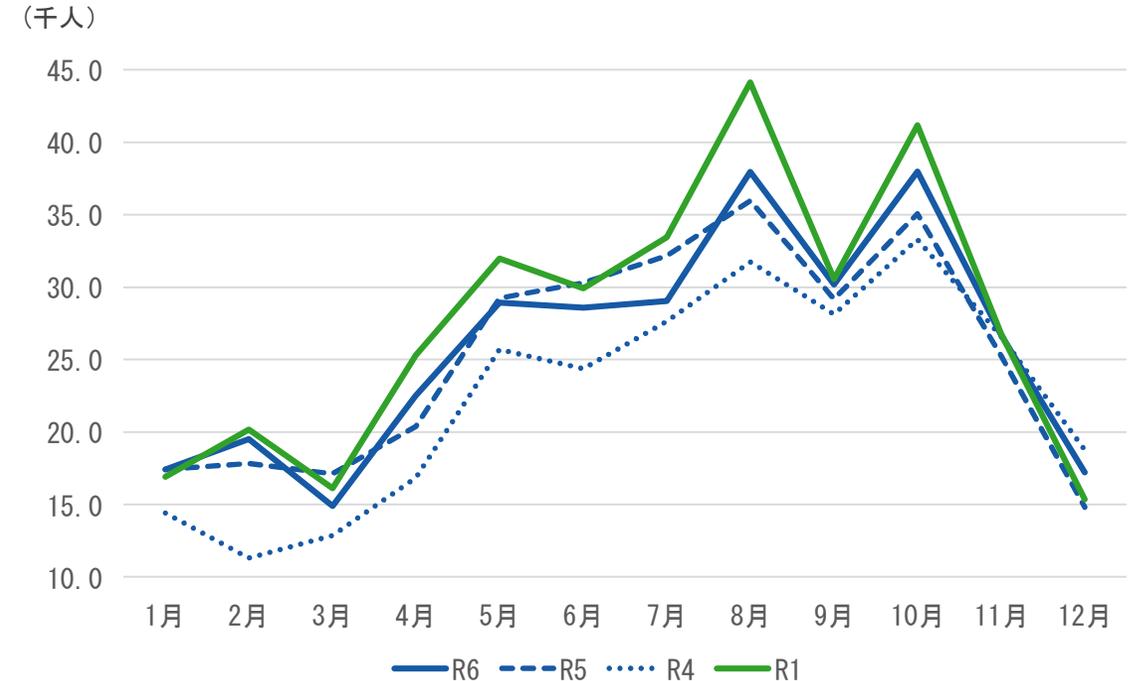
- 十和田市の月別観光入込客数は、5月から高い水準を維持し、紅葉がピークを迎える10月が最多となる。11月以降は大きく減少し、冬季は低水準のまま推移し、宿泊者数についても概ね同様の傾向にある。
- 十和田市全体の宿泊者数の月別推移のトレンドは、令和元年と同じ傾向にあり、旅行者の動きはコロナ禍前に回帰しているといえる。

### 十和田市の観光入込客数 月別推移（R5）



出典：青森県「令和5年青森県観光入込客統計(2023.1-12)」より作成

### 十和田市の宿泊客数 合計 月別推移

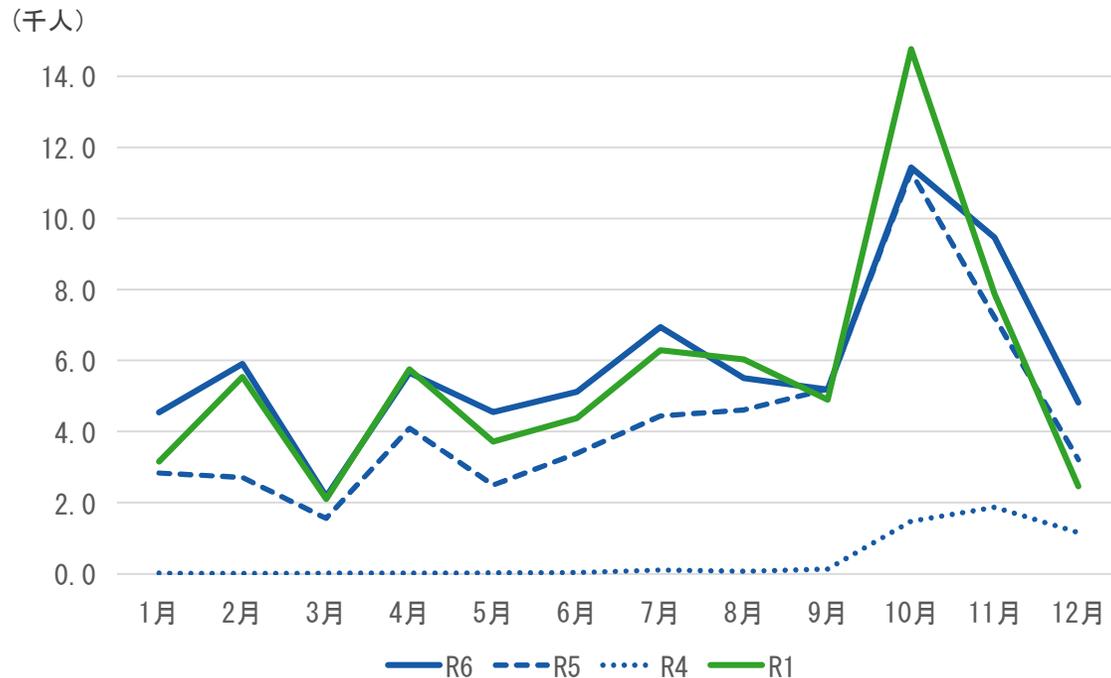


出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」  
 ※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数実数

## 5) 十和田市の観光動向／宿泊者数の推移（外国人・地区別/月別）

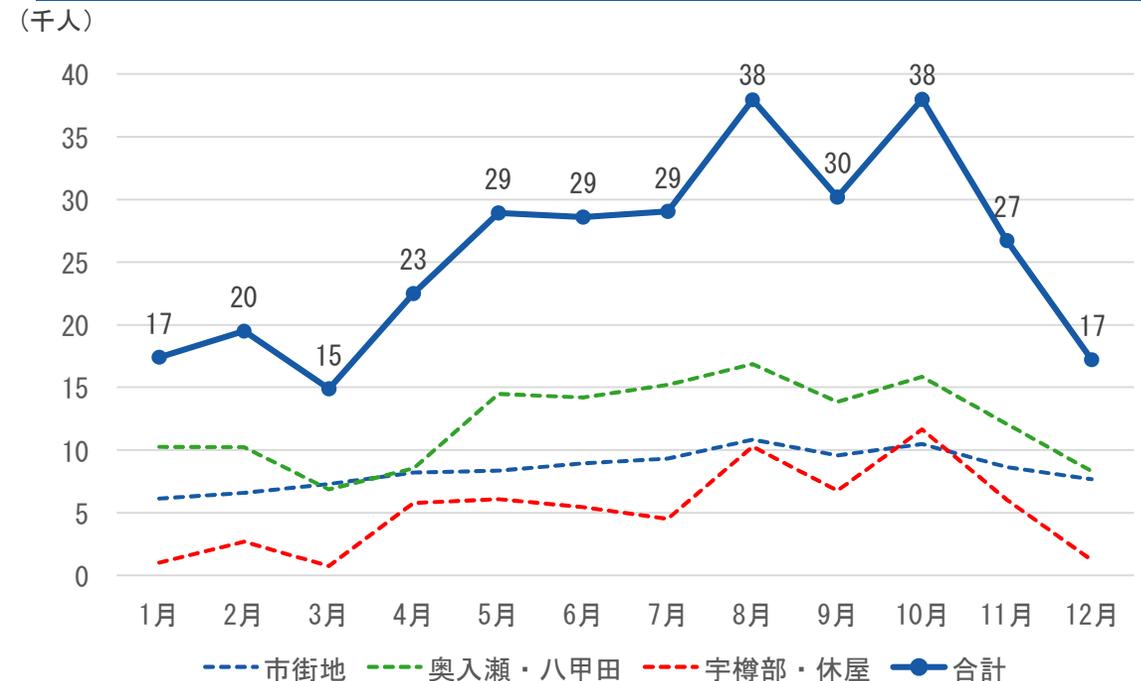
- 月別の外国人旅行者の宿泊者数についても概ね日本人と同じ傾向にある。
- 地区別に見ると、市街地地区は通年で横ばいだが、他の地区、特に宇樽部・休屋地区は、冬季の減少傾向が強い。

### 十和田市における宿泊者数 外国人/月別推移



出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」  
 ※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数実数

### 十和田市の宿泊者数 地区別/月別推移 (R6)

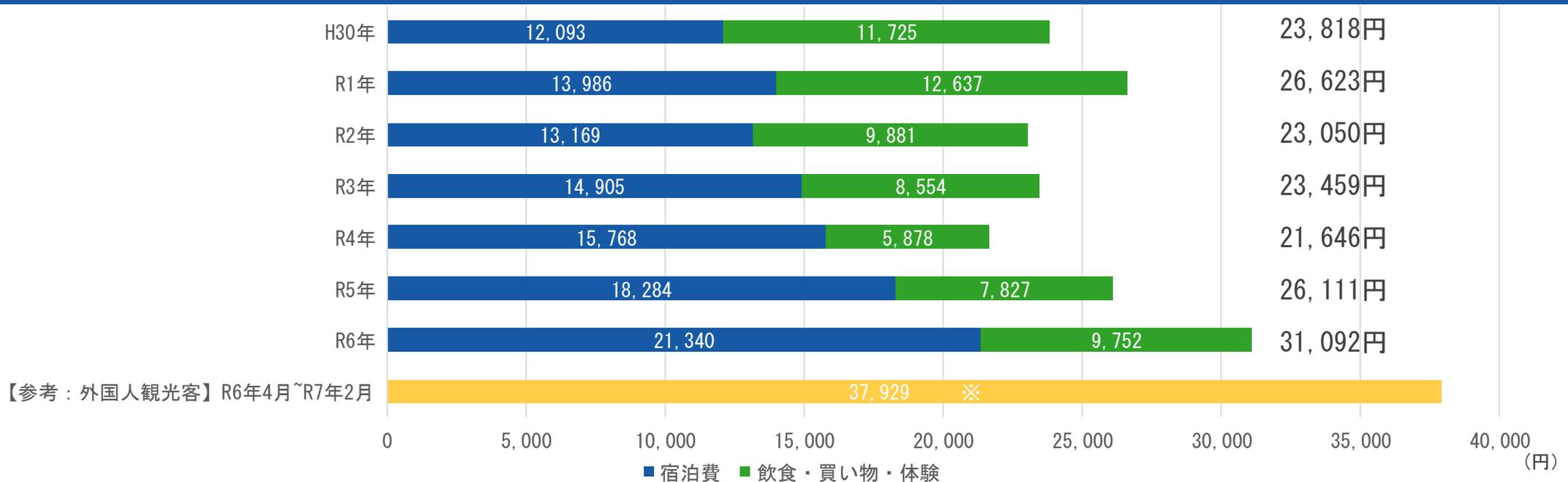


出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」  
 ※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数実数

## 5) 十和田市の観光動向／観光消費額の推移

- 十和田市における日本人観光客一人あたりの観光消費額は、コロナ禍により減少したが、令和5年にはコロナ禍前の水準まで回復、令和6年には宿泊費が牽引する形で大きく上昇した。
- 観光消費額の内訳をみると、宿泊費については順調に伸びているものの、飲食・買物・体験については、コロナ禍前の約7割程度となっている。
- 外国人観光客の観光消費額は日本人に比較して2割以上高い。

十和田市における一人あたりの観光消費額 推移



出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2024)」

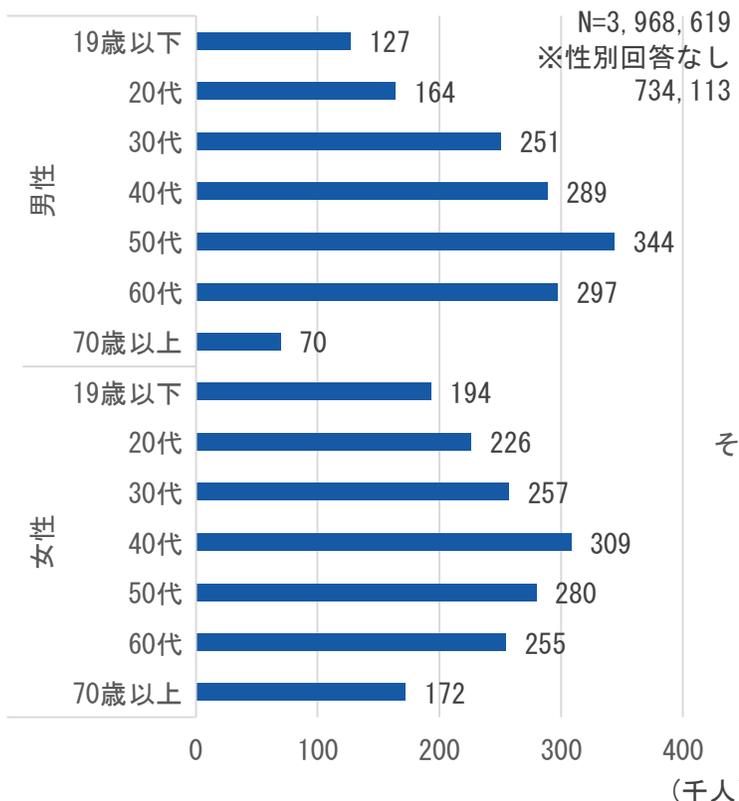
一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「インバウンド来訪者アンケート調査(2024年～2025年)」

※外国人観光客の観光消費額は、宿泊費とその他費用を合算で聴取している。外国人観光客向けの調査はR6年4月から開始していること、また、データとしてある程度精度を上げるため、計測開始からR7年2月までのデータを使用した。他方、データ精査の過程で異常値の頻出度が高かったこと、また、N数が88と少ないことから参考値として記載する。

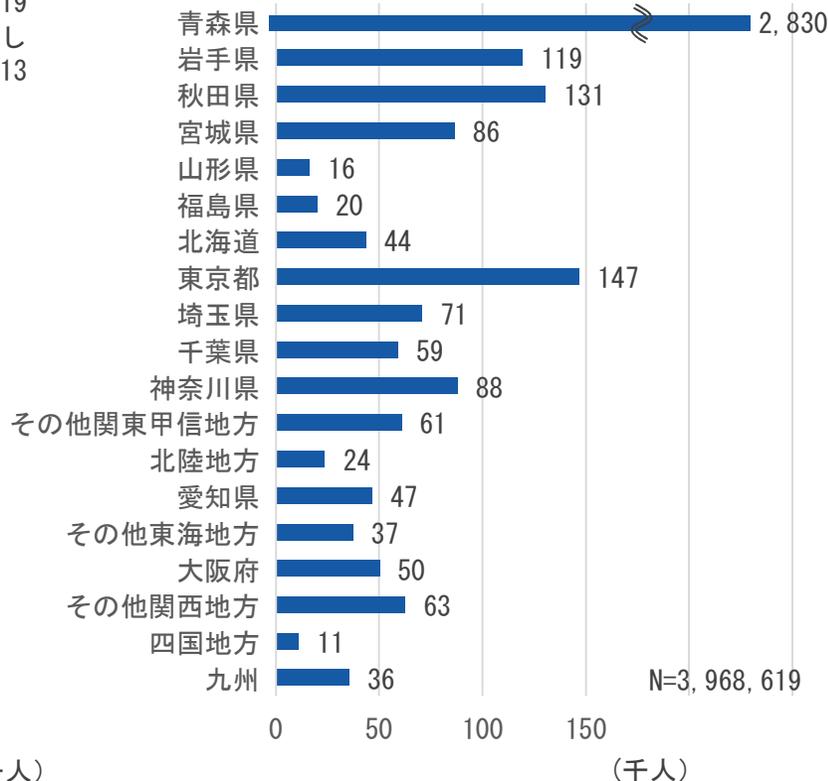
## 5) 十和田市の観光動向／日本人観光客の属性

- 性年代は、男女ともに40～50代の割合が高い。20代以下若年層の男性が女性に比較し少ない。
- 居住地は、県内以外では隣接県及び東京が多い。次いで他首都圏や大阪などが多い。
- 観光目的は、十和田湖や奥入瀬の自然景観が多く、次いで温泉の順となっている。

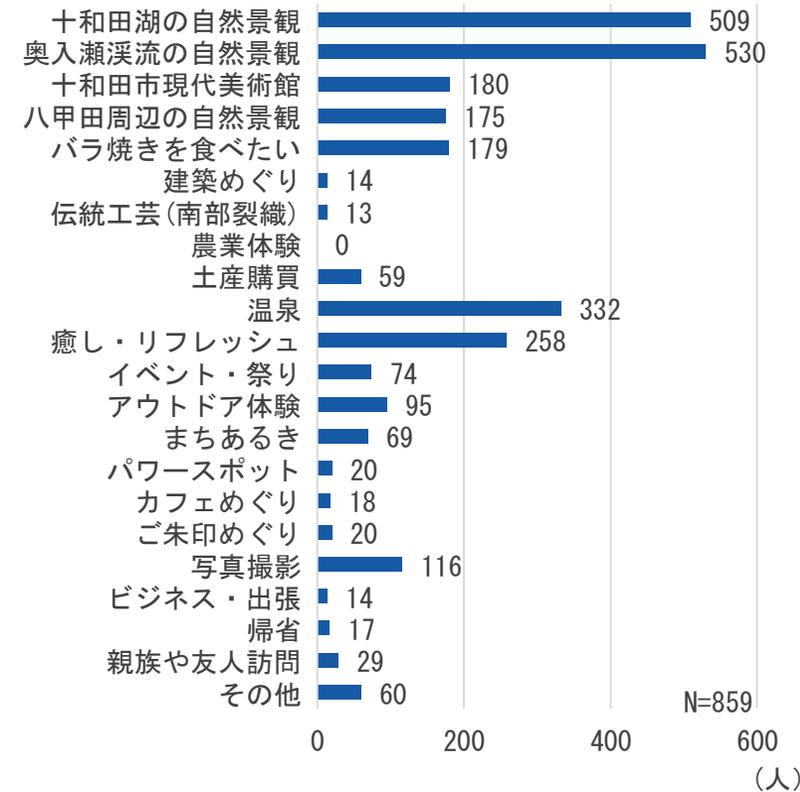
### 日本人観光客の性年代



### 日本人観光客の居住地



### 日本人観光客の目的



出典：東北観光DMP「国内動態分析（2023. 4-2024. 3）」より作成

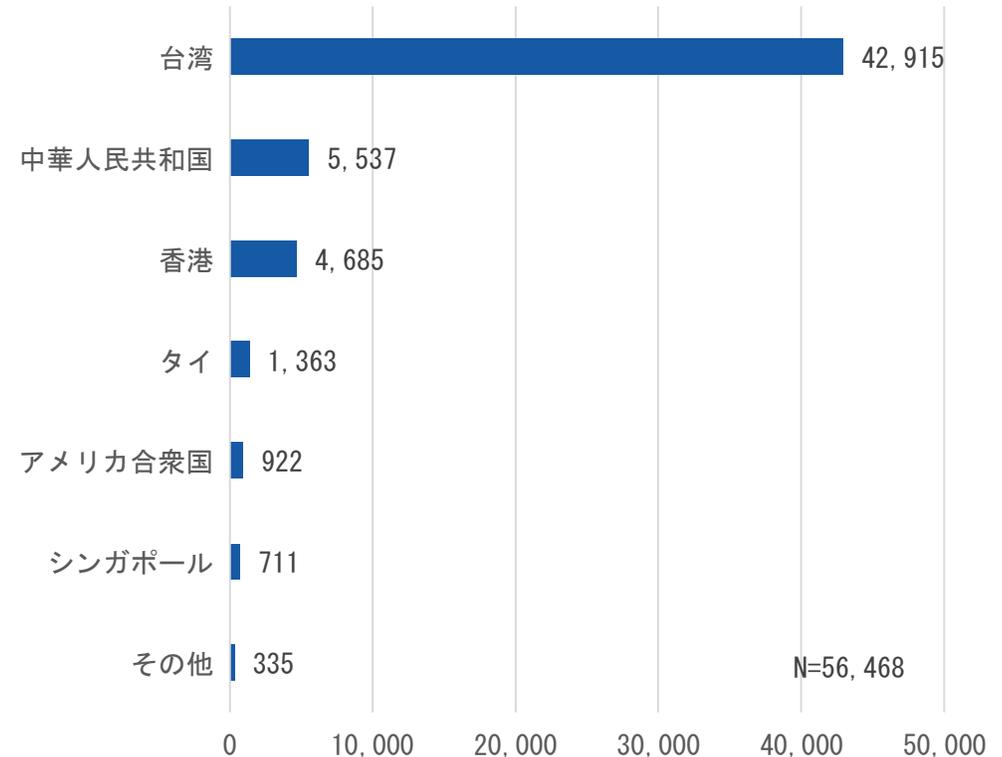
出典：東北観光DMP「国内動態分析（2023. 4-2024. 3）」より作成

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査（2024）」

## 5) 十和田市の観光動向／外国人観光客の属性

- 来訪者の国籍は台湾が75%を占めており、次いで中国、香港となっている。
- 外国人の観光目的は日本人とほぼ同様の傾向であり、十和田湖や奥入瀬の自然景観が多く、次いで温泉の順となっているが、アウトドア体験の割合が日本人に比較して高い。

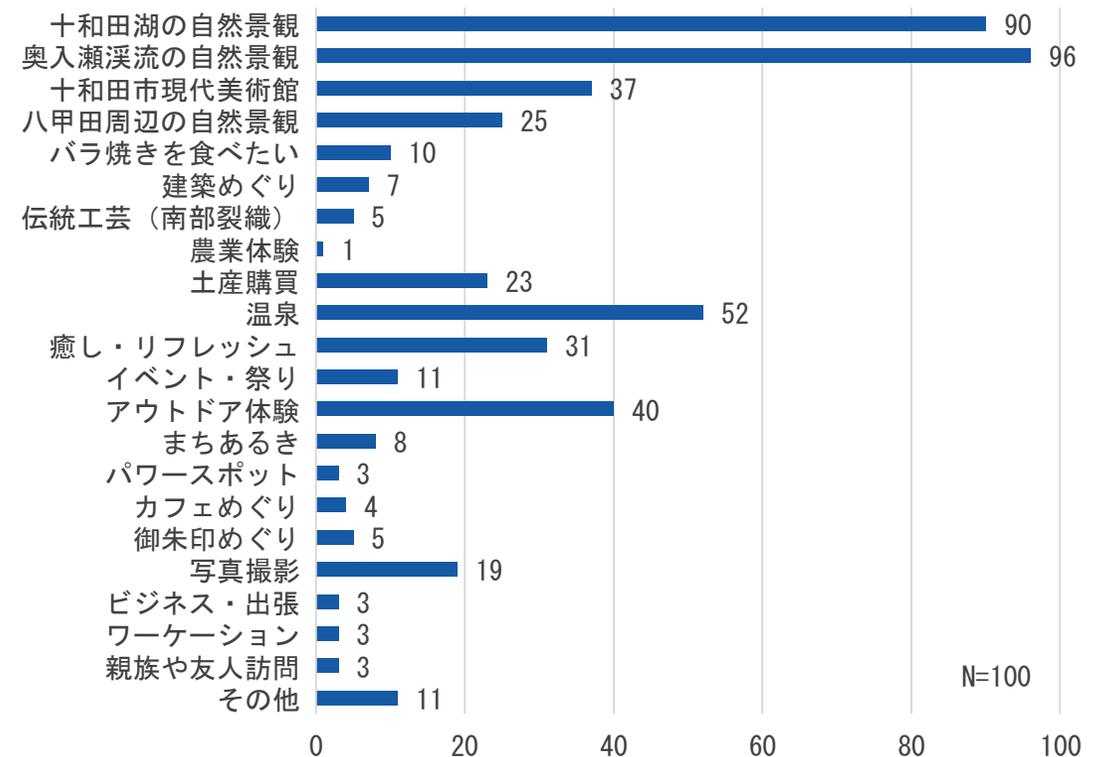
### 外国人観光客の国籍



出典：東北観光DMP「国内動態分析（2023.4-2024.3）」より作成

(人)

### 外国人観光客の目的



出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「インバウンド来訪者アンケート調査（2024～2025）」

(人)

### 3. 十和田市観光戦略のビジョンとミッション

---

# 1) 十和田市観光戦略2022-24の主な取組

「十和田市観光戦略2022-24」のもと、「自然とアートを核に稼いで潤う持続的な観光地域づくり」をビジョンに掲げ、様々な取組を実施している。

## 十和田市観光戦略2022-24のミッション・アクションプラン

課題	ミッション	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> <li>繁忙期の利益の最大化及び閑散期の対応</li> <li>国内団体ツアー、インバウンド需要の回復</li> <li>観光人材の育成</li> <li>生産性の向上と雇用の定着</li> <li>観光人材の高齢化、事業継承</li> </ul>	1) 観光による潤いの平準化	①ニューノーマルな観光スタイルの提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドベンチャーツーリズム</li> <li>・教育旅行</li> <li>・SDGsプログラム、サステナブルツーリズム</li> <li>・ワーケーション環境の整備</li> <li>・移動手段の充実と新たなモビリティの導入／青楓山バイパス完成後の交通システム</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーツーリズム対策</li> <li>環境保全の取組</li> <li>アートと自然に対するシビックプライドの醸成</li> <li>青楓山バイパス完成後の観光・交通システムの検討</li> <li>SDGsの浸透</li> </ul>	2) サステナブルな観光地域づくり	②観光コンテンツの磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナイトタイムエコノミーの充実</li> <li>・上質な宿泊施設の誘致</li> <li>・観光拠点施設の整備</li> <li>・既存観光資源の活用</li> <li>・現代アートの活用、収益化</li> <li>・食サービス提供施設の誘致</li> <li>・食文化を通じた情報発信</li> <li>・国や県の支援施策の活用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ターゲットを満足させる滞在型ホテルの不足</li> <li>現代アート需要に対応する宿泊施設の整備</li> <li>現代アートの高付加価値化</li> <li>アクティビティの充実</li> <li>高付加価値商品の不足</li> <li>食サービスの提供施設不足</li> <li>廃屋、放置遊覧船の撤去</li> <li>観光施設の老朽化、受入環境の整備</li> <li>Wi-fi、二次交通などのインフラ整備</li> <li>地域回遊のモビリティ</li> </ul>	3) 上質な観光サービス	③観光DX（デジタルトランスフォーメーション） <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光事業者のコスト削減、旅行者サービスの向上</li> <li>・CRM（顧客管理）の推進による収益化</li> <li>・観光サービスのデジタル化（インバウンド戦略を含む）／観光MaaSの推進、オンラインツアーの開催</li> <li>・Wi-Fiの整備</li> <li>・ふるさと納税の活用</li> </ul> ④観光人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド育成</li> <li>・関係人口のコミュニティ形成</li> <li>・シビックプライドの醸成</li> <li>・外部専門人材の活用</li> </ul>

# 1) 十和田市観光戦略2022-24の主な取組／観光目標の達成状況

- 「十和田市観光戦略2022-24」で掲げた数値目標は、全ての項目について達成することができた。
- リピーター率は前年度よりも減となったが、新規顧客の開拓により下がったとも考えられる。新規顧客とリピーターの割合としては適切と思われるため、これを維持しながら来訪者満足度の向上に努める。

	単位	平成30年 (実績)	令和元年 (実績)	令和2年 (実績)	令和3年 (実績)	令和4年 (実績)	令和5年 (実績)	令和6年	
								(目標)	(実績)
旅行消費額 (1人当たり)	円	23,838	26,623	23,050	23,459	21,646	26,111	27,000	31,092 達成率115.2% 前年比119.1%
延べ宿泊者数	人泊	327,896 (61,643)	331,881 (66,930)	216,599 (10,919)	195,387 (266)	271,670 (4,910)	304,782 (53,048)	295,000 (35,000)	310,957 (71,278) 達成率105.4% 前年比102.0%
来訪者満足度	%	74.1 (82.2)	83.9 (85.7)	90.4 (-)	90.6 (-)	94.2 (-)	95.2 (-)	85 (90.0)	97.6 (93.3) 達成率114.8% 前年比102.5%
リピーター率	%	45.3	45.0	56.2	75.5	64.1	61.1	57	59.8 達成率104.9% 前年比97.9%

※ ( ) は外国人。令和6年外国人の来訪者満足度は年途中からの計測のため参考値

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2024)」  
 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「インバウンド来訪者アンケート調査(2024~2025)」  
 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」

# 1) 十和田市観光戦略2022-24の主な取組／実績に対する考察

- 観光庁統計資料「旅行・観光消費動向調査2023」の数値や「青森県観光入込客統計2023」と比べると、宿泊費は全国平均と同等だが、飲食代等については消費額が圧倒的に少ない。
- 観光の潤いを地域に還元するためには、引き続き観光客の誘客や宿泊日数の増加に取り組むとともに、飲食などの観光の消費を上げる取り組みが必要である。

## 宿泊旅行中の消費額（交通費を除く）

	合計	宿泊費	飲食代・買物代・体験その他
全国	41,789円	18,120円	23,669円
青森県	22,060円	9,945円	12,114円
十和田市	26,111円 (全国：▲15,678円) (青森県：+4,051円)	18,284円 (全国：+164円) (青森県：+8,339円)	7,827円 (全国：▲15,842円) (青森県：▲4,287円)

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査 年間値確報・集計表確報(2023)」  
 青森県「青森県観光入込客統計(2023)」  
 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2023)」

## 2) 十和田市の観光課題/エリア別 環境分析(抜粋)

	十和田市全体	 街なか地区	 奥入瀬・八甲田地区	 十和田湖畔地区
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリア毎に違う観光資源</li> <li>三沢空港、七戸十和田駅、八戸駅など近隣の観光市場が近場</li> <li>来訪者の外国人比率30%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模倣困難な現代アート</li> <li>官庁街通り（日本の道百選）</li> <li>基盤の目の街並み</li> <li>歴史的背景（開墾、馬の文化）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">青楓山バイパス開通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>十和田観光の主役（知名度が高い）</li> <li>日本の貴重な苔の森</li> <li>歴史ある温泉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史ある十和田信仰</li> <li>十和田湖ひめます</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の人口減少・高齢化</li> <li>二次交通・地域内交通の不足</li> <li>高付加価値化商品の不足</li> <li>滞在型宿泊施設の不足</li> <li>観光人材不足、DX化の遅れ</li> <li>十和田固有の食文化の低収益</li> <li>他地域との連携不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設の不足</li> <li>空き地や空き店舗の増加</li> <li>アート需要の取りこぼし</li> <li>アート資源の活用不足</li> <li>新規の若い来訪客の需要取りこぼし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーツーリズム</li> <li>規制による新規開発が困難</li> <li>奥入瀬溪流のWi-Fi未整備とトイレ不足</li> </ul> <p style="text-align: center;">宿泊施設の減少・食サービスの提供施設不足</p> <p style="text-align: center;">冬季の集客・雨天時の観光コンテンツ不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人旅行への対応遅れ</li> <li>廃墟、放置遊覧船による景観悪化</li> <li>観光事業者の高齢化</li> </ul>
機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥入瀬バイパスの整備による立ち寄りやすさ向上</li> <li>青森空港の台湾便、中国便の復活</li> <li>観光市場の新調傾向とインバウンド回復</li> <li>台湾居住者の青森県認知度86.8%</li> <li>観光関連事業者増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣でのビジネスホテル増加に伴う街なか宿泊数のキャパシティ増</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国立公園満喫プロジェクト</p> <p style="text-align: center;">青楓山バイパス開通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園先端モデル事業での宿泊施設誘致</li> </ul>
脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンド需要減</li> <li>資材、仕入れ、燃料費等物価の高騰</li> <li>コロナ禍後の若年層の観光経験不足</li> <li>地方財政の不安</li> <li>観光客の運転免許取得率の減少</li> <li>市民のシビックプライドの欠如</li> <li>繁忙期の利益の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス利用減に伴う宿泊者数の減少</li> </ul>	<p style="text-align: center;">積雪不足による冬季イベントの魅力減</p> <p style="text-align: center;">国立公園内の規制・ルールの変更</p> <p style="text-align: center;">ツアー型観光商品の市場減少</p> <p style="text-align: center;">交通事業者の撤退</p>	

## 2) 十和田市の観光課題

- コロナ禍を経て観光客はコロナ禍前の水準へ戻りつつあるが、多くの観光課題については解決しておらず、引き続き課題解決のための取組を進める必要がある。

### 共通の課題

- ・ 繁忙期における利益の最大化（滞在時間延長及び旅行消費額の増）
- ・ 高付加価値化商品の不足
- ・ 観光人材の不足（質の向上）、DX化の遅れ
- ・ 自然とアートに対するシビックプライドの欠如
- ・ 二次交通などの観光インフラが未整備
- ・ 閑散期（冬季）の観光需要への対応
- ・ ターゲットを満足させる滞在型ホテルの不足

### 地域別の課題

まちなか	奥入瀬地区	十和田湖畔地区
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代アートとマッチする宿泊施設の不足</li> <li>・ 現代アートを付加価値とした関連商品の供給不足</li> <li>・ 空き地・空き店舗の増加（中心市街地の空洞化）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーバーツーリズム対策</li> <li>・ 環境保全の仕組みの欠如</li> <li>・ 食サービスの提供施設不足</li> <li>・ 青樺山バイパス開通後における交通システムへの対応</li> <li>・ 冬季観光における温暖化への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光人材の高齢化、事業承継</li> <li>・ 建物の老朽化・廃屋の増加</li> <li>・ 遊覧船（廃船）の放置、不法係留</li> <li>・ アクティビティのコンプライアンス欠如</li> <li>・ 休屋廃屋撤去後の土地再利用への対応</li> </ul>

### 3) ビジョンとミッション

- 「十和田市観光戦略2022-24」の方向性を踏襲し、課題解決のために継続的な取組を進めていく。

#### ビジョン

「自然とアートを核に  
稼いで潤う 持続的な観光地域づくり」

#### ミッション

- [1] 観光による潤いの平準化
  - 自然とアートを核とした観光
  - 滞在時間や消費単価の増加
  - 若者の雇用機会創出
- [2] サステナブルな観光地域づくり
  - 自然環境の保全
  - 関係人口による地域づくり
  - SDGsの浸透
- [3] 上質な観光サービス
  - 観光人材のスキル向上
  - 高付加価値サービスの提供



### 3) ビジョンとミッション／KPI（観光目標）

- ビジョンをより具体化し、進捗状況を継続的に計測できる3つの項目を観光目標に設定する。
- 戦略期間中は様々な外部要因への対応が想定されることから、状況に応じ数値目標を最適化する。
- 観光目標のほかに、観光戦略の効果を確認するための参考指標を設定する。

観光目標	目標値	設定理由	令和元年 (実績)	令和6年 (実績)
旅行消費額 (1人当たり)	35,000円 宿泊費：22,000円 飲食等：13,000円	観光による経済効果を確認する指標	26,623円 宿泊費：13,986円 飲食等：12,637円	31,092円 宿泊費：21,340円 飲食等：9,752円
延べ宿泊者数	332,000人泊 (74,000人泊)	来訪者数を確認する指標	331,881 (66,930)	310,957 (71,278)
来訪者満足度	95% (95%)	受入環境の整備状況を確認する指標	83.9 (85.7)	97.6 (93.3)

※ ( ) は外国人

参考指標	設定理由	最新値
リピーター率	来訪者満足度の向上による効果を図るための指標。新規顧客を増やすことも重要であるため、50%～60%程度を維持するものとする。	59.8%
連泊率	連泊を推進していく指標として、市内の宿泊施設にどの程度連泊しているのか算出した数値。	14.5%
推奨度(NPS)	一定の満足度を獲得できていることから、満足度を超えて他人に推奨したい度合いを計測する。顧客ロイヤルティを細分して数値化、評価できるように新たに計測を開始する。	—

## 4) 顧客ターゲット(ターゲット像)

これまで十和田市が獲得できていた客層、および獲得できていなかった客層を明確にした上で、観光目標の一つであるの旅行消費額の観点で重要となるターゲット像を具体化する。

### ターゲット像

①子育て前の夫婦での旅行者



獲得できていなかった客層  
他年代に比較して旅行消費額は低くなく、ナイトタイムにおける行動が活発。

国内旅行者  
②50～70代の夫婦での旅行者



十和田市に訪れていた客層に最も近い。年代が上がるにつれ比較的旅行消費額が高い。

③ひとり旅の旅行者



獲得できていなかった客層  
旅行消費額は比較して高くないが、連泊する傾向が強い。

インバウンド旅行者

④台湾からの旅行者

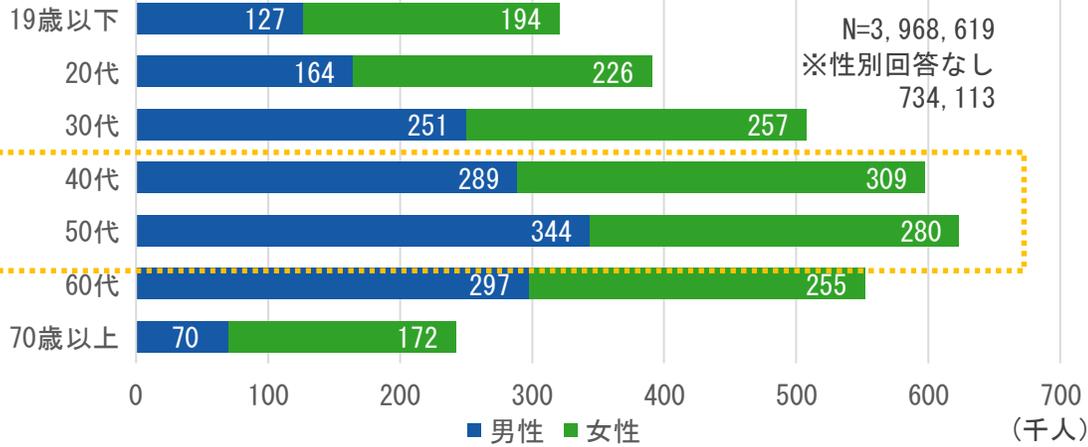


獲得できていた客層  
日本人に比較して消費額は高い。十和田市インバウンドの大多数が台湾人。

※各顧客層の傾向は、DMOが所有する統計データ等から独自に導きマーケティングの観点で述べているものであり、全国一様にその傾向を断言するものではない。

# 4) 顧客ターゲット (年代・旅行消費額分析)

十和田市 日本人観光客の性年代

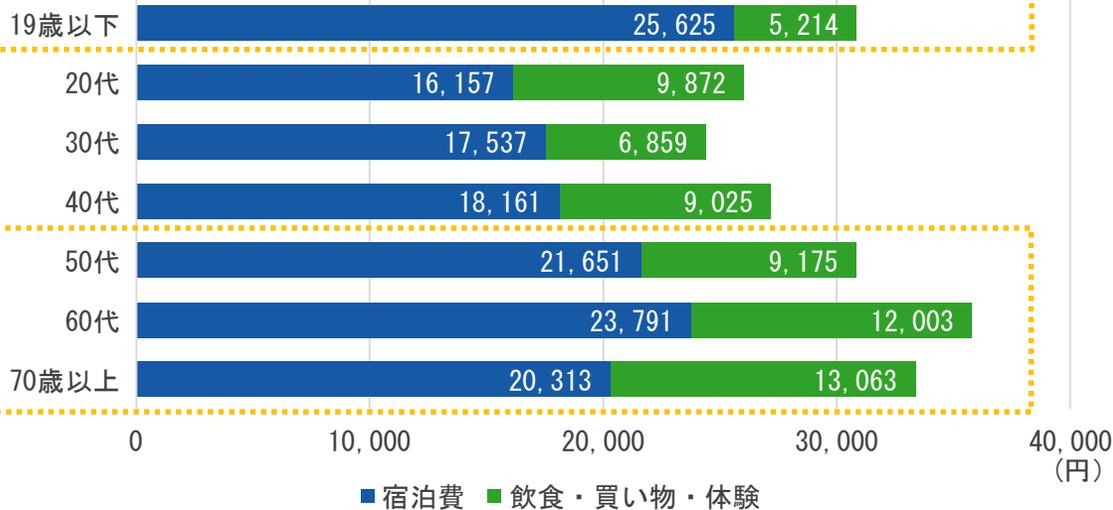


出典: 東北観光DMP 国内動態分析 (2023. 4-2024. 3)

- 十和田市を訪れる日本人観光客の属性を見ると40-50代が最も多い。(左上グラフ)
- 年代別旅行消費額を見ると、60代以降が特に高く、次いで50代、十和田市の客層としては少ない10代が高い。(左下グラフ)
- 青森県の年代別消費額と比較しても近い傾向にあるが、青森県全体では50代および20代の消費額が高くなっている。

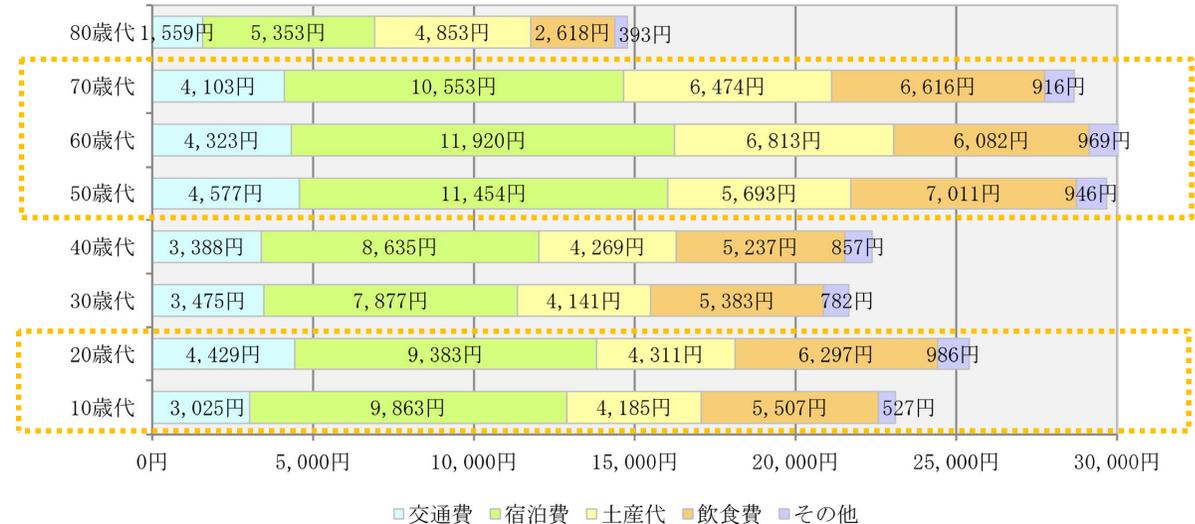
10~20代の若年層や50~70代の集客強化は旅行消費額の増加に与える影響は大きいと考えられる。

十和田市 日本人観光客の年代別消費額



出典: 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2024)」

青森県観光客 年代別旅行消費額



出典: 青森県「令和5年青森県観光入込客統計(2023. 1-12)」

# 4) 顧客ターゲット（旅行主体・旅行消費額分析）

- 旅行主体別の旅行消費額では、夫婦旅行の消費額が最も高い。（左グラフ）
- 次点では大人のみ家族旅行が高くなっている一方、未成年を含む家族旅行の消費額は低く、子育てが消費額に影響していると思われる。（左グラフ）
- 十和田市と東北全体で、各年代の旅行主体別構成比を比較すると、十和田市は若年層夫婦が少なく、50~70代夫婦の構成比が高いことがわかる。（右表）

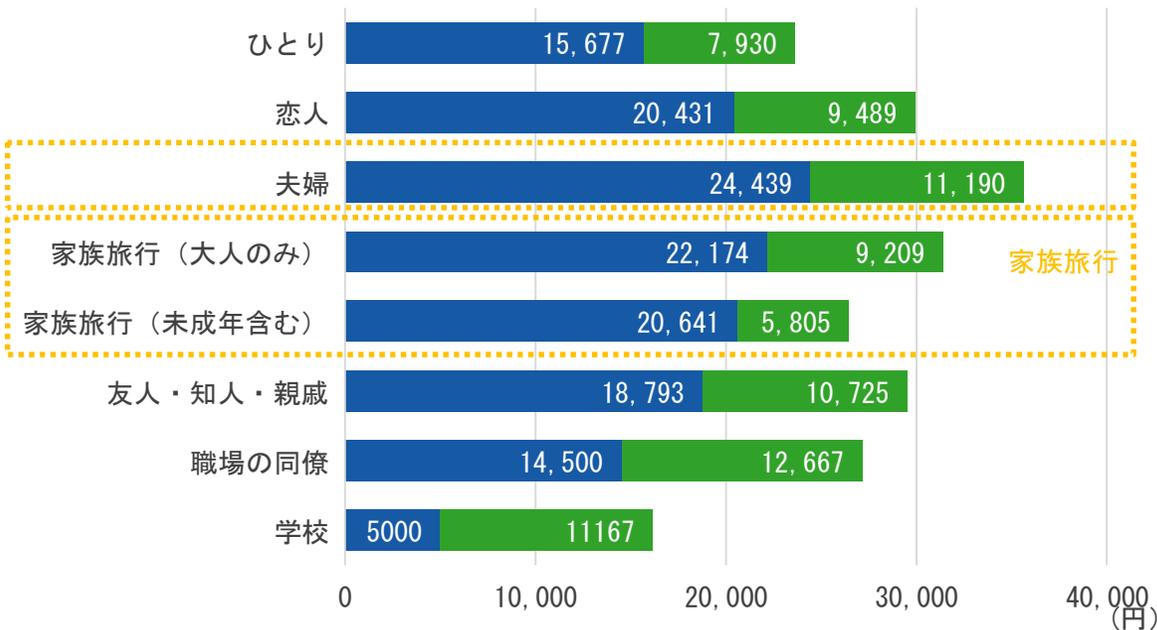
①子育て前の夫婦での旅行者

②50~70代の夫婦での旅行者



子育て前の夫婦（ターゲット①）を集客する是正施策や、子供が独立した50~70代の夫婦（ターゲット②）を更に伸ばす強みの強化が、旅行消費額の観点では重要である。

十和田市 旅行主体別消費額



各年代の旅行主体構成比 十和田・東北比較

各年代	旅行主体	ひとり	恋人	夫婦	家族旅行	友人・知人	職場等	学校等	その他
10代	東北	7.7%	0.0%	11.5%	76.9%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
	十和田	6.5%	3.2%	3.2%	58.1%	12.9%	0.0%	16.1%	0.0%
	差	-1.2	3.2	-8.3	-18.9	12.9	0.0	12.3	0.0
20代	東北	36.8%	16.5%	16.5%	16.3%	12.7%	0.7%	0.4%	0.0%
	十和田	13.4%	16.8%	14.5%	25.1%	21.8%	3.4%	1.7%	3.4%
	差	-23.4	0.2	-2.0	8.8	9.1	2.7	1.2	3.4
30代	東北	30.3%	11.5%	21.0%	27.8%	7.8%	1.4%	0.1%	0.1%
	十和田	15.0%	7.3%	23.9%	38.1%	12.6%	2.0%	0.4%	0.8%
	差	-15.3	-4.2	2.8	10.3	4.8	0.7	0.3	0.7
40代	東北	33.3%	6.9%	23.6%	26.6%	8.6%	0.9%	0.1%	0.0%
	十和田	17.7%	6.4%	28.9%	32.8%	8.0%	4.8%	0.3%	1.0%
	差	-15.6	-0.4	5.3	6.2	-0.5	3.9	0.2	1.0
50代	東北	35.9%	5.6%	28.9%	19.1%	8.4%	1.8%	0.1%	0.2%
	十和田	17.1%	2.3%	41.5%	23.2%	11.6%	3.8%	0.0%	0.6%
	差	-18.8	-3.3	12.6	4.1	3.1	2.0	-0.1	0.4
60代	東北	35.4%	2.1%	39.3%	10.9%	10.9%	1.0%	0.1%	0.4%
	十和田	16.0%	1.1%	54.1%	12.0%	14.8%	0.9%	0.3%	0.9%
	差	-19.4	-0.9	14.9	1.1	4.0	-0.1	0.1	0.4
70代以上	東北	28.7%	3.2%	34.7%	20.7%	11.6%	0.8%	0.4%	0.0%
	十和田	8.0%	1.6%	65.6%	10.4%	12.0%	0.0%	0.0%	2.4%
	差	-20.7	-1.6	30.9	-10.3	0.4	-0.8	-0.4	2.4
合計	東北	33.3%	7.7%	25.8%	22.7%	9.0%	1.2%	0.2%	0.1%
	十和田	15.4%	5.0%	37.5%	24.7%	12.9%	2.7%	0.6%	1.2%
	差	-17.9	-2.7	11.7	2.0	3.9	1.5	0.5	1.0

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2023-2024)」  
 および東北観光DMP「東北観光者向けアンケート(2023-2024)」より作成  
 ※各要素の信頼度を上げるため、それぞれの調査2年分を合算して作成

# 4) 顧客ターゲット (旅行主体・宿泊数分析)

各年代の旅行主体構成比 十和田・東北比較

各年代旅行主体構成比		ひとり	恋人	夫婦	家族旅行	友人・知人	職場等	学校等	その他
10代	東北	7.7%	0.0%	11.5%	76.9%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
	十和田	6.5%	3.2%	3.2%	58.1%	12.9%	0.0%	16.1%	0.0%
	差	-1.2	3.2	-8.3	-18.9	12.9	0.0	12.3	0.0
20代	東北	36.8%	16.5%	16.5%	16.3%	12.7%	0.7%	0.4%	0.0%
	十和田	13.4%	16.8%	14.5%	25.1%	21.8%	3.4%	1.7%	3.4%
	差	-23.4	0.2	-2.0	8.8	9.1	2.7	1.2	3.4
30代	東北	30.3%	11.5%	21.0%	27.8%	7.8%	1.4%	0.1%	0.1%
	十和田	15.0%	7.3%	23.9%	38.1%	12.6%	2.0%	0.4%	0.8%
	差	-15.3	-4.2	2.8	10.3	4.8	0.7	0.3	0.7
40代	東北	33.3%	6.9%	23.6%	26.6%	8.6%	0.9%	0.1%	0.0%
	十和田	17.7%	6.4%	28.9%	32.8%	8.0%	4.8%	0.3%	1.0%
	差	-15.6	-0.4	5.3	6.2	-0.5	3.9	0.2	1.0
50代	東北	35.9%	5.6%	28.9%	19.1%	8.4%	1.8%	0.1%	0.2%
	十和田	17.1%	2.3%	41.5%	23.2%	11.6%	3.8%	0.0%	0.6%
	差	-18.8	-3.3	12.6	4.1	3.1	2.0	-0.1	0.4
60代	東北	35.4%	2.1%	39.3%	10.9%	10.9%	1.0%	0.1%	0.4%
	十和田	16.0%	1.1%	54.1%	12.0%	14.8%	0.9%	0.3%	0.9%
	差	-19.4	-0.9	14.9	1.1	4.0	-0.1	0.1	0.4
70代以上	東北	28.7%	3.2%	34.7%	20.7%	11.6%	0.8%	0.4%	0.0%
	十和田	8.0%	1.6%	65.6%	10.4%	12.0%	0.0%	0.0%	2.4%
	差	-20.7	-1.6	30.9	-10.3	0.4	-0.8	-0.4	2.4
合計	東北	33.3%	7.7%	25.8%	22.7%	9.0%	1.2%	0.2%	0.1%
	十和田	15.4%	5.0%	37.5%	24.7%	12.9%	2.7%	0.6%	1.2%
	差	-17.9	-2.7	11.7	2.0	3.9	1.5	0.5	1.0

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2023-2024)」および東北観光DMP「東北観光者向けアンケート(2023-2024)」より作成

- 十和田市のひとり旅旅行者は、東北全体に比べて圧倒的に低い(上表)。
- ひとり旅旅行者の旅行消費額は、他旅行主体に比較して低い(前項左グラフ参照)が、
- 旅行主体毎の宿泊日数を見ると、ひとり旅旅行者は連泊する率が非常に高い。

③ひとり旅の旅行者



宿泊日数が増加は旅行消費額の増加に繋がることから、ひとり旅旅行者(顧客ターゲット③)の集客を強化する必要がある。

旅行主体別宿泊日数

	ひとり	恋人	夫婦	家族旅行	友人・知人	職場の同僚	学校・サークル	その他	総計
1泊2日	37.7%	43.0%	42.3%	29.5%	37.1%	29.8%	9.1%	24.3%	37.3%
2泊3日	13.2%	12.8%	18.3%	13.2%	16.7%	17.0%	0.0%	54.1%	15.6%
3泊以上	14.0%	7.0%	5.1%	6.4%	5.9%	23.4%	0.0%	2.7%	7.4%
日帰り	35.1%	37.2%	34.3%	50.9%	40.3%	29.8%	90.9%	18.9%	39.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 宿泊日数で見ると職場の同僚の連泊率は高いと見られるが、旅行消費額では低い(全頁参照)。

またターゲティングとしては個人顧客よりもMICEの誘致等に影響することから本顧客ターゲットとしては除外する。

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「来訪者アンケート調査(2023-2024)」

# 4) 顧客ターゲット（インバウンド国籍別分析・渡航先分析）

令和6年 国籍別宿泊者数及び構成比

国・地域	台湾	韓国	中国	香港	タイ	シンガポール	カンボジア	マレーシア	ベトナム	インドネシア	その他アジア	アメリカ	カナダ	ドイツ	フランス	スペイン	イギリス	ロシア	その他欧州	オーストラリア	ニュージーランド	中南米諸国	中近東諸国	アフリカ諸国	その他・国籍不明	計
宿泊者数	42,046	3,799	9,452	6,715	699	1,495	24	302	128	110	170	2,615	231	106	261	8	385	0	262	834	42	16	44	8	1,526	71,278
構成比	59.0%	5.3%	13.3%	9.4%	1.0%	2.1%	0.0%	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%	3.7%	0.3%	0.1%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%	1.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	2.1%	100.0%

出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2023.4-2024.3)」

## 令和5年度 台湾人訪問先

### 青森県内

### 東北6県内訳

訪問先	訪問数
青森市	61,527
弘前市	42,915
十和田市	36,383
三沢市	9,254
八戸市	8,431
津軽	7,930
総計	166,440

訪問先	訪問数
宮城県	464,250
山形県	256,763
岩手県	179,287
青森県	166,440
新潟県	107,604
福島県	96,949
秋田県	81,154
合計	1,352,447

- 🌐 宿泊者数を国籍別に見ると台湾人が約6割を占める（上表）。
- 🌐 青森県を訪れる台湾人の多くが十和田市を訪問先として選んでおり、十和田市は台湾にて一定の認知度は獲得できていると言える（左下表）。
- 🌐 他方、台湾人訪問先を東北全体を見ると、他県に比較し青森県は多くない（右下表）。

コロナ禍で運休していた青森-台湾直行便が再開したことも鑑みると、台湾人の青森および東北旅行者数のポテンシャルは高く、その中でさらにシェアを拡大したい。日本人旅行者に比較しインバウンドの消費額が高いことから優先度は高い。（顧客ターゲット④）

④台湾からの旅行者



出典：東北観光DMP「海外動態分析(2023.4-2024.3)」より作成

## 5) 重点課題

- 観光消費額の増加に直接つながる課題や早急に対応する必要がある課題を重点課題とした。

### 重点課題①：観光コンテンツの充実

- 観光旅行者の消費額拡大や滞在日数の増加のためには、魅力的なコンテンツの創出が必要
- インバウンド誘客の促進には、地域に根差した観光資源の磨き上げが重要
  - ・ 自然を活用したアドベンチャーツーリズム
  - ・ 閑散期の底上げとして冬季の観光コンテンツ
  - ・ アートを活用したコンテンツ
  - ・ 地域の豊かな食材を活用したメニュー・コンテンツ

### 重点課題②：まちなかへの宿泊施設の誘致

- まちなかにおいては、滞在期間の長期化を促し、消費の拡大を図るための基盤施設である宿泊施設が必要
- まちなかは飲食店などが多く、宿泊者数の増加が観光消費額の拡大につながる
- 現代アート客とマッチするビジネスホテルと区分できる宿泊施設がより効果的

### 重点課題③：二次交通の充実

- 観光客の大都市圏から地方への流れを創出するためには、観光地へのアクセス交通が重要
- 主要な鉄道駅や空港と観光地を結ぶ二次交通の充実が必要

### 重点課題④：休屋廃屋撤去後の土地再利用への対応

- 令和6年3月に十和田湖畔休屋・休平地区が国立公園先端モデル事業の利用拠点の第1弾として選定
- 宿泊施設の誘致に向けて、滞在型・高付加価値化観光の推進に集中的に取り組む予定
- 住民サービス向上や上質な歩行空間づくりとして石畳の延長など、当該モデル事業に連携した取組が必要

## 4. アクションプラン

---

# 1) 課題解決のためのアクションプラン

アクションプラン分類	アクションプラン
①観光コンテンツの創出・定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドベンチャーツーリズムの推進【重点課題①】</li> <li>・ナイトタイムエコノミーの充実</li> <li>・冬季観光コンテンツの充実【重点課題①】【新規】</li> <li>・既存観光資源の活用</li> <li>・周遊コンテンツの造成【新規】</li> <li>・現代アートの活用・収益化【重点課題①】</li> <li>・グルメ・お土産の開発・改良【重点課題①】【新規】</li> <li>・ガイドの育成</li> </ul>
②受入環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかへの宿泊施設の誘致【重点課題②】【新規】</li> <li>・食サービス提供施設の誘致</li> <li>・観光拠点施設の整備</li> <li>・休屋廃屋撤去後の土地再利用への対応【重点課題④】【新規】</li> <li>・青楓山バイパス完成後の交通規制への対応</li> <li>・二次交通の整備【重点課題③】【新規】</li> <li>・地域内交通の充実【新規】</li> </ul>
③持続可能な観光産業の確立と生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光DXの推進</li> <li>・担い手の確保・育成</li> <li>・旅行ニーズの把握と活用</li> <li>・シビックプライドの醸成</li> <li>・奥入瀬溪流エコツーリズムの推進</li> <li>・日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の導入【新規】</li> <li>・外部専門人材の活用</li> </ul>
④国内外からの誘客強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十和田ファンを増やす情報発信【新規】</li> <li>・関係人口のコミュニティ形成</li> <li>・ふるさと納税の活用</li> <li>・観光MaaSの導入</li> <li>・広域観光の連携</li> <li>・観光セミナー・商談会でのPR【新規】</li> <li>・MICE、教育旅行の誘致</li> </ul>

# ①観光コンテンツの創出・定着

## アドベンチャーツーリズムの推進【重点課題①】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 十和田の天然資源を活用したアドベンチャーツーリズムの推進や、アートとアドベンチャーツーリズムの融合などにより、滞在時間及び観光消費額を増加させる。

### 活用する資源・コンテンツの例

#### 奥入瀬溪流

コケ散歩  
ネイチャーウォーク  
E-BIKEツーリング  
芝桜等のスキー場施設

#### 十和田湖

カヌー・サップ体験  
パワーボートクルーズ  
八戸十和田トレイル  
サウナ

#### 湯ノ台・蔦

温泉資源  
乗馬  
撮影ツアー(星空、風景など)  
ハイキング・スノーシュー

#### 街なか

十和田市現代美術館  
世界的建築家作品やアート作品  
街歩きツアーや商店街店舗  
桜流鎬馬



# ①観光コンテンツの創出・定着

## ナイトタイムエコノミーの充実

- 日没の18時頃から翌朝6時頃までの夜間に行われる体験活動の充実により、宿泊者を増加させる。

### ナイトタイムコンテンツ

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

氷瀑ナイトツアーや三番街回遊事業など、既存観光資源と地域事業者のサービスを連携させ、夕刻以降に実施する高付加価値サービスを提供し、消費拡大と連泊を図る。



### 早朝コンテンツ

実施主体：民間事業者

時刻や季節に合わせて変化する十和田湖とその周辺の景色を日の出とともに鑑賞できる体験活動により、宿泊者満足度とリピーター増加を図る。

十和田湖早朝自然散歩、十和田湖早朝カヌーツアー など



# ①観光コンテンツの創出・定着

## 冬季観光コンテンツの充実【重点①】【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- ❶ 観光事業者の収益を安定させるためには、閑散期の底上げとして冬季の観光コンテンツの充実を図る。
- ❷ 氷瀑ツアーのコモディティ化を防ぐため、付加価値サービスの提供などを検討
- ❸ 気候変動による冬季間の気温の上昇に備え、氷瀑ツアー以外の観光コンテンツの開発



## 既存観光資源の活用

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- ❶ 既存観光資源や事業者サービスの連携や磨き上げにより、体験メニューやアクティビティの充実に繋げ、効果的な周知による認知度の向上を図る。



# ①観光コンテンツの創出・定着

## 周遊コンテンツの造成【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 十和田市が有する豊富な観光資源・要素を組み合わせ、磨き上げを行うことで、周遊コンテンツの造成を行い、観光客の長期滞在及び観光消費の増加に繋げる。



## 現代アートの活用・収益化【重点①】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- アートと建築の連携等、現代アートの街ならではの高付加価値化、収益化を図る。
- 十和田市現代美術館をはじめとするアートの活用により、都市空間の魅力の向上と商店街の活性化を促進



# ①観光コンテンツの創出・定着

## グルメ・お土産の開発・改良【新規】

実施主体：十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 観光消費額を拡大するため、飲食・物販において新たな商品の開発や既存商品のブラッシュアップし、高付加価値化、高収益化を図る。



## ガイドの育成

実施主体：十和田奥入瀬観光機構、十和田市現代美術館、民間事業者

- アートや自然を生かしたコンテンツを整備、高付加価値化するため、ガイドの育成に取り組む。



## ②受入環境の整備・充実

### まちなかへの宿泊施設の誘致【重点②】【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構

- まちなかの宿泊施設は、ビジネスと観光客により年間を通じて宿泊率が高い水準
- 現代アート客とマッチするビジネスホテルと区分できる施設の誘致



### 食サービス提供施設の誘致

実施主体：十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 市内全体を通じて、観光客向けの食サービス施設が不足。特にマスツーリズム型の大型食事施設が少なく、さらに富裕層向けの食事施設はほぼみられない。
- インバウンドをはじめ、観光地の食サービスには多様なメニューが求められており、イベントやセミナー、商品開発を通じた食のレベルアップが必要



## ②受入環境の整備・充実

### 観光拠点施設の整備

- 施設の持つ機能や場所を踏まえ、観光拠点施設として必要な整備を行い、上質な観光サービスを提供

#### 青楓山バイパス開通後の周辺地域の整備

実施主体：十和田市

- 青楓山バイパスの完成を見据え、周辺地域のビジョンを策定

#### 奥入瀬溪流館の整備

実施主体：十和田市

- ガイドの空き状況把握のためのシステムの構築などを行い、ガイド拠点施設の機能を強化

#### 観光施設における新たな活用の検討

実施主体：十和田市

- 道の駅の持つ機能を活用した車中泊やキャンプ可能スペースの造成など、新しい活用方法の検討



## ②受入環境の整備・充実

### 休屋廃屋撤去後の土地再利用への対応【重点④】【新規】

- 十和田湖畔休屋・休平地区が、国立公園先端モデル事業の第1弾として選定
- 自然体験アクティビティと連携した宿泊施設の誘致等、保護と利用の好循環の仕組みづくり等を行う。

#### 基本構想の実現に向けた協議

実施主体：十和田湖1000年会議

- 地域全体での取組を進めるため、十和田湖1000年会議において取組の方針や内容について共有・連携を図る。

#### 廃屋の撤去

実施主体：環境省

- 十和田湖畔の景観の向上のため、放置されている廃屋を撤去

#### マスタープランに基づく事業の実施

実施主体：十和田市

- 十和田湖1000年会議で策定予定のマスタープランに基づき、住居の確保や住民サービスの向上を図る。
- 地域文化を体感できるまちなみづくりに向けた道路の石畳化を引き続き実施



## ②受入環境の整備・充実

### 青楓山バイパス完成後の交通規制への対応

- 青楓山バイパス完成後の交通規制後における「車のいない奥入瀬」に向けた対応を検討

#### 青楓山バイパス完成後の交通規制後の対応の検討

実施主体：奥入瀬溪流利活用協議会

- 奥入瀬溪流・十和田湖を中心とする区域の自然保護と利活用を両立させるため、当区域の環境保全、観光振興、交通システムを検討



#### 奥入瀬溪流エコロードフェスタ

実施主体：奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

- 青楓山バイパス完成後の交通規制を見据えた各種社会実験、ガイドツアーなどのイベントを開催



## ②受入環境の整備・充実

### 二次交通の整備【重点③】【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 主要な鉄道駅や空港と観光地を結ぶ二次交通を整備し、持続可能な交通体系を構築することが必要
- ダイヤ調整や運行経路の検討などによる交通の利便性の向上を図る。
- 観光資源を活かした旅行商品の造成・磨き上げを行うことによる交通の魅力向上を図る。



### 地域内交通の充実【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 観光地域内の観光スポットに行くための手段が不足
- 市街地循環バスなどの都市計画とリンクした運行経路を検討
- ガイド等によるツアー参加者の送迎などによる観光客の移動手段を確保



### ③持続可能な観光産業の確立と生産性の向上

#### 観光DXの推進

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- デジタル技術を活用して業務改善を行い、観光業界の弱点である生産性向上・収益力強化を図る。
- 奥入瀬溪流における観光DXを進めるために必要なインフラである光ファイバの整備について、県や光ファイバ整備事業者と情報交換するなど調査・研究を行う。



#### 担い手の確保・育成

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 観光地域全体をマネジメントできる中核人材の育成や観光産業の従事者が確保できる環境が必要
- 地域おこし協力隊制度などを活用して意欲のある人材の募集を検討



### ③持続可能な観光産業の確立と生産性の向上

#### 旅行ニーズの把握と活用

実施主体：十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- デジタルマーケティングを活用し、旅行ニーズの変化を迅速・的確に把握
- CRM（顧客管理）を活用して、満足度の高いサービスを提供



#### シビックプライドの醸成

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- シビックプライドは「都市に対する市民の誇り」であり、これを高めることで定住率が向上し、新たな市民をも惹きつける効果が期待できる。
- 観光イベントやコンテンツを市民に周知することで、地域の再発見と市民の地域に対する関心度の向上を図る。
- 今後の担い手となる子ども達に対するアプローチ方法についても研究していく。



### ③持続可能な観光産業の確立と生産性の向上

#### 奥入瀬溪流エコツアーリズムの推進

実施主体：奥入瀬溪流エコツアーリズムプロジェクト実行委員会、民間事業者

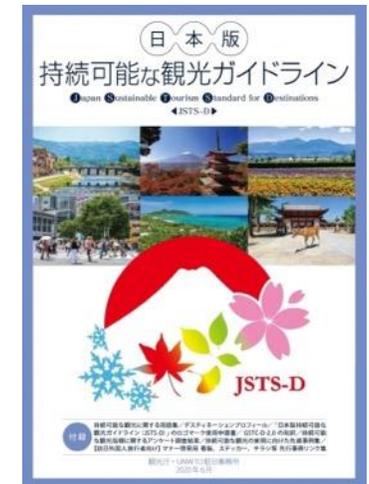
- 令和6年5月にエコツアーリズム推進法に基づく「奥入瀬溪流エコツアーリズム推進全体構想」が認定
- 全体構想に基づき、奥入瀬溪流内の適正な保全と利用のルール周知、モニタリングなどを実施



#### 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の導入【新規】

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構

- 世界的に「持続可能な観光」への関心が高まっており、JSTS-Dに基づき取り組み、対外的にアピールすることで誘客に繋がる。
- 奥入瀬溪流におけるエコロードフェスタなどの取組が「奥入瀬溪流サステナブルツアーリズム推進事業」としてモデル事業に採択
- 十和田湖休屋地区におけるマスタープランにおいて、持続可能な観光地としての国際認証の取得を施策に掲げる予定
- 両地区において日本版持続可能な観光ガイドラインの導入について検討を進める。



### ③持続可能な観光産業の確立と生産性の向上

#### 外部専門人材の活用

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構

- 観光事業者が市場の変化に対応し、競争力を保つことを目的として、専門家による各分野の支援を展開。シンポジウム、セミナー、講習、相談会などを継続的に実施
- 専門的なノウハウをや知見を活かして地域課題に取り組む「地域活性化起業人」制度等の活用を検討



## ④国内外からの誘客強化

### 十和田ファンを増やす情報発信【新規】

実施主体：十和田奥入瀬観光機構

- 十和田市へ関心があるお客様に愛着を持っていただき、十和田ファンを増やすことは、関係人口の創出につながる。
- 様々な媒体の持つ特性を活かして、十和田市のイベントや食文化、観光コンテンツの情報発信を効果的に行う。



### 関係人口のコミュニティ形成

実施主体：十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 旅行以上移住未滿のプログラムとして、「インターン」や「おてつたび」などを活用
- 地域の人々と直接触れ合うことにより、地域との関係性を創出



## ④国内外からの誘客強化

### ふるさと納税の活用

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- ふるさと納税を通じて、十和田市を知ってもらい、興味を持ってもらうことが重要
- 新たな返礼品の発掘やふるさと納税を活用した情報発信を実施



### 観光MaaSの導入

実施主体：十和田市、十和田奥入瀬観光機構、民間事業者

- 観光MaaSとは、公共交通機関や観光施設が提供するサービスを最適に組み合わせてワンストップのサービスを提供するもの。
- 観光MaaSの導入により、移動ストレスの軽減に繋がるとともに、観光コンテンツの周遊喚起を通じて、滞在時間や観光消費額の増が期待できる。
- 交通手段の充実を図るとともに先進事例を研究する。



## ④国内外からの誘客強化

### 広域観光の連携

- 複数の観光地がそれぞれの特性を活かし、広域で連携することにより、広域エリア全体の魅力を集積することで更なる魅力の向上が期待できる。

#### 上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会

実施主体：圏域内市町村

- 圏域内市町村（2市7町1村）が連携・協力して観光事業に取り組むことにより、観光客誘致を促進する。



#### DMO間による広域連携

実施主体：十和田奥入瀬観光機構

- DMO間の連携により、地域で抱える課題の共有・優良事例の展開、周遊ルートの開拓、情報共有による効率的な誘客などが期待できる。



## ④国内外からの誘客強化

### 観光セミナー・商談会でのPR【新規】

実施主体：十和田奥入瀬観光機構

- 観光セミナーや商談会は、旅行会社へ効率的にPRできる機会
- 旅行会社等のニーズに合わせた旅行商品の開発



### MICE、教育旅行の誘致

実施主体：十和田奥入瀬観光機構

- 企業等の会議や報奨旅行・学会などのMICEをオフシーズンに誘致することで旅行需要の平準化を図ることが可能
- 教育旅行に対応できるような滞在プログラムの開発





十和田市

Towada City